

大学番号 020

注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更  
注1

**事前伺い**

埼玉大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻（専門職学位課程）  
注2

## 【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 埼玉大学  
令和3年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・大学の設置の場合：「〇〇大学」  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 教育学研究科

### <教職実践専攻>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 附帯事項等に対する履行状況等	33
7. その他全般的事項	35

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人 埼玉大学

## (2) 大学名

埼玉大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒338-8570  
埼玉県さいたま市桜区下大久保255

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(カイ カフミ) 坂井 貴文 (令和2年4月)		
研究科長	(ウスイ シュンジ) 薄井 俊二 (令和3年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)  
令和3年度に報告する内容 → (3)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学研究科 教職実践専攻 (専門職学位課程) 教職修士(専門職)	教員養成関係	2年	52人	- 年次人	104人	新規入学者を募集中	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	- (-) [-]	52 (-) [-]	- (-) [-]	0.90 倍	- 倍								
志願者数	- (-) [-]	65 (-) [-]	- (-) [-]										
受験者数	- (-) [-]	59 (-) [-]	- (-) [-]										
合格者数	- (-) [-]	54 (-) [-]	- (-) [-]										
B 入学者数	- (-) [-]	47 (-) [-]	- (-) [-]										
入学定員超過率 B/A	-		-		-		-		0.90				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	47 [-] (-)	- [-] (-)								
2年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)							
3年次			/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4年次	/				- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)						

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
令和2年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
令和3年度	47 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
			令和元年度	— 人	— 人	
			令和2年度	— 人	— 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{47} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<大学院教育学研究科 教職実践専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	教育課程の課題探求	1①~2	2			5					1
		子ども共育の理論と実践	1①~2	4								7
		教科の教育課程構成論	1①~2	2			2					55
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	教科指導の課題探求	1①~2	2			1	1				9
		特別支援教育の課題探求	1①~2	2			1					2
		教科指導の発展・応用	1①~2	2			3					45
	生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の課題探求	1①~2	2			2					1
		特別支援教育コーディネータ演習	1①~2	2			2					2
		子供の発達と保護室における養護教諭の実践	1①~2	2			2	2				1
	学級経営、学校経営に関する領域	教育経営の課題探求	1①~2	2			1					3
		学校構想の理論と実践	1①~2	2			3	1				1
		現代の健康問題と学校保健の実践的課題	1①~2	2			2	2				1
	学校教育と教員の在り方に関する領域	学校と教職の課題探求	1通	4			8	1				1
		学校課題改善演習	1①~2	2			3					4
小計(14科目)		-	12	20	0	12	6	0	0	0	72	
学校実習における科目	実地研究 I	1通	4			9	4				69	
	実地研究 II	2通	6			9	4				69	
	実地研究 I (特別支援教育)	1通	4			1					2	
	実地研究 II (特別支援教育)	2通	6			1					2	
	実地研究 I (学校保健)	1通	4			2	2				1	
	実地研究 II (学校保健)	2通	6			2	2				1	
	小計(6科目)	-	0	30	0	12	6	0	0	0	72	
課題研究	課題研究 I	1通	2			9	4				69	
	課題研究 II	2通	2			9	4				69	
	課題研究 I (特別支援教育)	1通	2			1					2	
	課題研究 II (特別支援教育)	2通	2			1					2	
	課題研究 I (学校保健)	1通	2			2	2				1	
	課題研究 II (学校保健)	2通	2			2	2				1	
	小計(6科目)	-	0	12	0	12	6	0	0	0	72	
学校構想サブプログラム科目	学級づくり論	1③~④	2			3	1				1	
	学校と社会論	1③~④	2			1					1	
	学校と児童生徒理解の心理学	1③~④	2			1					1	
	学校臨床心理学実践演習	1③~④	2			2					2	
	心理学的方法の活用と探求	1③~④	2			2					2	
	カウンセリング実践演習	1③~④	2			2					2	
	心理・学習評価演習	1③~④	2			1					1	
	総合・道徳開発演習	1③~④	2			3	1				1	
	教育工学開発演習	1③~④	2			2					1	
	特別支援教育サブプログラム科目	発達臨床アセスメント演習	1③~④	2			1					1
特別支援教育実践研究		1③~④	2			1					2	
障害児教育実践の課題探求法		1③~④	2			1					1	
インクルーシブ教育演習		1③~④	2			2					1	
障害児心理学の実践と課題A		1③~④	2			1					1	
学校保健サブプログラム科目	障害児心理学の実践と課題B	1③~④	2			1					1	
	学校保健の理論と実践の探求	1③~④	2			1	1				1	
	保健教育の実践と課題の探求	1③~④	2			1	1				1	
	保健管理の実践と課題の探求	1③~④	2			1					1	
	養護教諭の専門家としての成長	1③~④	2			2					2	
子ども共育サブプログラム科目	教育生理の臨床と子供の成長課題	1③~④	2			1					1	
	子ども支援の実践と制度	1③~④	2			2					2	
	保育内容と指導の課題探求	1③~④	2			2					2	
	子どもの発達と教育相談の課題探求	1③~④	2			2					2	
	<教育-社会-環境>基礎論	1③~④	2			1					1	
	子ども認識の思想と構造	1③~④	2			2					2	
	子育て支援開発探求	1③~④	2			2					2	
幼児の音楽表現の開発探求	1③~④	2			2					2		
小計(27科目)	-	0	54	0	10	3	0	0	0	0	17	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	教育課程の課題探求	1①~2	2			5					2
		子ども共育の理論と実践	1①~2	4								7
		教科の教育課程構成論	1①~2	2			2					54
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	教科指導の課題探求	1①~2	2			1	2				15
		特別支援教育の課題探求	1①~2	2			1					2
		教科指導の発展・応用	1①~2	2			3					48
	生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の課題探求	1①~2	2			2					2
		特別支援教育コーディネータ演習	1①~2	2			2					2
		子供の発達と保護室における養護教諭の実践	1①~2	2			2	2				1
	学級経営、学校経営に関する領域	教育経営の課題探求	1①~2	2			1					3
		学校構想の理論と実践	1①~2	2			3	1				1
		現代の健康問題と学校保健の実践的課題	1①~2	2			2	2				1
	学校教育と教員の在り方に関する領域	学校と教職の課題探求	1通	4			8	1				1
		学校課題改善演習	1①~2	2			3					3
小計(14科目)		-	12	20	0	12	6	0	0	0	72	
学校実習における科目	実地研究 I	1通	4			9	4				67	
	実地研究 II	2通	6			8	4				67	
	実地研究 I (特別支援教育)	1通	4			1					2	
	実地研究 II (特別支援教育)	2通	6			1					2	
	実地研究 I (学校保健)	1通	4			2	2				1	
	実地研究 II (学校保健)	2通	6			2	2				1	
	小計(6科目)	-	0	30	0	12	6	0	0	0	70	
課題研究	課題研究 I	1通	2			9	4				66	
	課題研究 II	2通	2			8	4				66	
	課題研究 I (特別支援教育)	1通	2			1					2	
	課題研究 II (特別支援教育)	2通	2			1					2	
	課題研究 I (学校保健)	1通	2			2	2				1	
	課題研究 II (学校保健)	2通	2			2	2				1	
	小計(6科目)	-	0	12	0	12	6	0	0	0	69	
学校構想サブプログラム科目	学級づくり論	1③~④	2			2	1				1	
	学校と社会論	1③~④	2			1					1	
	学校と児童生徒理解の心理学	1③~④	2			1					1	
	学校臨床心理学実践演習	1③~④	2			2					2	
	心理学的方法の活用と探求	1③~④	2			2					1	
	カウンセリング実践演習	1③~④	2			2					2	
	心理・学習評価演習	1③~④	2			1					1	
	総合・道徳開発演習	1③~④	2			3	1				1	
	教育工学開発演習	1③~④	2			2					1	
	特別支援教育サブプログラム科目	発達臨床アセスメント演習	1③~④	2			1					1
特別支援教育実践研究		1③~④	2			1					2	
障害児教育実践の課題探求法		1③~④	2			1					1	
インクルーシブ教育演習		1③~④	2			2					1	
障害児心理学の実践と課題A		1③~④	2			1					1	
学校保健サブプログラム科目	障害児心理学の実践と課題B(未開講)	1③~④	2			1					1	
	学校保健の理論と実践の探求	1兼中	2			1	1				1	
	保健教育の実践と課題の探求	1兼中	2			1	1				1	
	保健管理の実践と課題の探求	1兼中	2			1					1	
	養護教諭の専門家としての成長	1兼中	2			2					2	
子ども共育サブプログラム科目	教育生理の臨床と子供の成長課題	1兼中	2			1					1	
	子ども支援の実践と制度	1③~④	2			2					2	
	保育内容と指導の課題探求	1③~④	2			2					2	
	子どもの発達と教育相談の課題探求	1③~④	2			2					2	
	<教育-社会-環境>基礎論	1③~④	2			1					1	
	子ども認識の思想と構造	1③~④	2			2					2	
	子育て支援開発探求	1③~④	2			2					2	
幼児の音楽表現の開発探求	1③~④	2			2					2		
小計(27科目)	-	0	54	0	9	3	0	0	0	0	17	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
言語文化系教育サブプログラム科目	言語文化系教育の理論と実践A(国語)	13~4	2								6
	言語文化系教育の理論と実践B(英語)	13~4	2								2
	言語文化系教育の授業内容探求A(国語)	13~4	2								3
	言語文化系教育の授業内容探求B(国語)	13~4	2								3
	言語文化系教育の授業内容探求C(英語)	13~4	2								2
	言語文化系教育の授業内容探求D(英語)	13~4	2								2
	言語文化系教育の教材研究と実践A(国語)	13~4	2								2
	言語文化系教育の教材研究と実践B(国語)	13~4	2								2
	言語文化系教育の教材研究と実践C(英語)	13~4	2								1
	言語文化系教育の教材研究と実践D(英語)	13~4	2								1
社会系教育サブプログラム科目	社会科教育の理論と実践A	13~4	2								2
	社会科教育の理論と実践B	13~4	2								2
	社会科教育の授業内容探求	13~4	2								6
	社会科教育の教材研究と実践A	13~4	2								3
	社会科教育の教材研究と実践B	13~4	2								3
自然科学系教育サブプログラム科目	自然科学系教育の理論と実践A(算数・数学)	13~4	2								2
	自然科学系教育の理論と実践B(理科)	13~4	2			1					1
	自然科学系教育の授業内容探求A(算数・数学)	13~4	2								1
	自然科学系教育の授業内容探求B(算数・数学)	13~4	2								1
	自然科学系教育の授業内容探求C(理科)	13~4	2								4
	自然科学系教育の授業内容探求D(理科)	13~4	2								4
	自然科学系教育の教材研究と実践A(算数・数学)	13~4	2								2
	自然科学系教育の教材研究と実践B(算数・数学)	13~4	2								2
	中核的理科教員(CST)養成講座	13~4	4			1					9
	芸術系教育サブプログラム科目	芸術系教育の理論と実践A(音楽)	13~4	2							
芸術系教育の理論と実践B(図工・美術)		13~4	2								5
芸術系教育の授業内容探求A(音楽)		13~4	2								4
芸術系教育の授業内容探求B(音楽)		13~4	2								4
芸術系教育の授業内容探求C(図工・美術)		13~4	2								5
芸術系教育の授業内容探求D(図工・美術)		13~4	2								5
芸術系教育の教材研究と実践A(音楽)		13~4	2								4
芸術系教育の教材研究と実践B(音楽)		13~4	2								4
芸術系教育の教材研究と実践C(図工・美術)		13~4	2								5
芸術系教育の教材研究と実践D(図工・美術)		13~4	2								5
身体文化系教育サブプログラム科目	体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求	13~4	2			1					1
	体育・保健体育科教育の理論と実践A	13~4	2								2
	体育・保健体育科教育の理論と実践B	13~4	2								2
	体育・保健体育科教育の教材研究と実践A	13~4	2			1					2
	体育・保健体育科教育の教材研究と実践B	13~4	2								3
生活創造系教育サブプログラム科目	技術科教育の理論と実践	13~4	2								5
	技術科教育の授業内容探求A	13~4	2								3
	技術科教育の授業内容探求B	13~4	2								3
	家庭科教育の理論と実践	13~4	2								2
	家庭科教育の授業内容探求A	13~4	2								3
	家庭科教育の授業内容探求B	13~4	2								3
	技術科教育の教材研究と実践A	13~4	2								2
	技術科教育の教材研究と実践B	13~4	2								3
	家庭科教育の教材研究と実践A	13~4	2								3
家庭科教育の教材研究と実践B	13~4	2								3	
小計(49科目)	-	0	100	0	0	2	0	0	0	0	55
全体にかかるとする科目	現代的・地域的教育課題の共同探求	13~4	2		4	1					
	探求活動演習Ⅰ	1通		2	12	6					72
	探求活動演習Ⅱ	2通		2	12	6					72
	小計(3科目)	-	0	2	4	12	6	0	0	0	0
合計(105科目)	-	12	218	4	12	6	0	0	0	0	72

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
言語文化系教育サブプログラム科目	言語文化系教育の理論と実践A(国語)	13~4	2								6
	言語文化系教育の理論と実践B(英語)	10~2	2								2
	言語文化系教育の授業内容探求A(国語)	13~4	2								3
	言語文化系教育の授業内容探求B(国語)	13~4	2								3
	言語文化系教育の授業内容探求C(英語)	10~2	2								2
	言語文化系教育の授業内容探求D(英語)	13~4	2								2
	言語文化系教育の教材研究と実践A(国語)	13~4	2								2
	言語文化系教育の教材研究と実践B(国語)	13~4	2								2
	言語文化系教育の教材研究と実践C(英語)	13~4	2								1
	言語文化系教育の教材研究と実践D(英語)	10~2	2								1
社会系教育サブプログラム科目	社会科教育の理論と実践A	10~2	2								2
	社会科教育の理論と実践B	13~4	2								2
	社会科教育の授業内容探求	13~4	2								7
	社会科教育の教材研究と実践A	13~4	2								3
	社会科教育の教材研究と実践B	13~4	2								3
自然科学系教育サブプログラム科目	自然科学系教育の理論と実践A(算数・数学)	13~4	2								2
	自然科学系教育の理論と実践B(理科)	13~4	2			1					1
	自然科学系教育の授業内容探求A(算数・数学)	13~4	2								1
	自然科学系教育の授業内容探求B(算数・数学)	10~2	2								1
	自然科学系教育の授業内容探求C(理科)	1集中	2								4
	自然科学系教育の授業内容探求D(理科)	1集中	2								4
	自然科学系教育の教材研究と実践A(算数・数学)	13~4	2								3
	自然科学系教育の教材研究と実践B(算数・数学)	13~4	2								3
	中核的理科教員(CST)養成講座	1集中	4			1					9
	芸術系教育サブプログラム科目	芸術系教育の理論と実践A(音楽)	10~2	2							
芸術系教育の理論と実践B(図工・美術)		10~2	2								4
芸術系教育の授業内容探求A(音楽)		10~2	2								4
芸術系教育の授業内容探求B(音楽)		13~4	2								4
芸術系教育の授業内容探求C(図工・美術)		10~2	2								4
芸術系教育の授業内容探求D(図工・美術)		13~4	2								4
芸術系教育の教材研究と実践A(音楽)		10~2	2								4
芸術系教育の教材研究と実践B(音楽)		13~4	2								4
芸術系教育の教材研究と実践C(図工・美術)		13~4	2								4
芸術系教育の教材研究と実践D(図工・美術)		13~4	2								4
身体文化系教育サブプログラム科目	体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求	13~4	2			1					1
	体育・保健体育科教育の理論と実践A	10~2	2								2
	体育・保健体育科教育の理論と実践B	13~4	2								1
	体育・保健体育科教育の教材研究と実践A	10~2	2			1					2
	体育・保健体育科教育の教材研究と実践B	13~4	2								2
生活創造系教育サブプログラム科目	技術科教育の理論と実践	13~4	2								5
	技術科教育の授業内容探求A	13~4	2								3
	技術科教育の授業内容探求B	13~4	2								3
	家庭科教育の理論と実践	13~4	2								2
	家庭科教育の授業内容探求A	13~4	2								3
	家庭科教育の授業内容探求B	13~4	2								3
	技術科教育の教材研究と実践A	13~4	2								2
	技術科教育の教材研究と実践B	13~4	2								3
	家庭科教育の教材研究と実践A	13~4	2								3
家庭科教育の教材研究と実践B	13~4	2								3	
小計(49科目)	-	0	100	0	0	2	0	0	0	0	56
全体にかかるとする科目	現代的・地域的教育課題の共同探求	13~4	2		4	1					
	探求活動演習Ⅰ	1通		2	12	6					69
	探求活動演習Ⅱ	2通		2	11	6					69
	小計(3科目)	-	0	2	4	12	6	0	0	0	0
合計(105科目)	-	12	218	4	12	6	0	0	0	0	75



<p>・社会系教育サブプログラム</p> <p>社会系教育サブプログラム科目の全ての科目（10単位）を必修とし履修する。 さらに、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>・自然科学系教育サブプログラム</p> <p>自然科学系教育サブプログラム科目の「自然科学系教育の理論と実践A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の理論と実践B（理科）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求B（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求C（理科）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求D（理科）」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修として履修する。 また、「自然科学系教育の教材研究と実践A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の教材研究と実践B（算数・数学）」（2単位）、「中核的理科教員（CST）養成講座」（4単位）の3科目から4単位を選択必修として履修する。 さらに、前述の選択必修で履修した10単位以外の自然科学系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>・芸術系教育サブプログラム</p> <p>芸術系教育サブプログラム科目の「芸術系教育の理論と実践A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の理論と実践B（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求B（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求C（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求D（図工・美術）」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修として履修する。 また、「芸術系教育の教材研究と実践A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践B（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践C（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践D（図工・美術）」（2単位）の4科目から2科目4単位を選択必修として履修する。 さらに、前述の選択必修で履修した5科目（10単位）以外の芸術系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>・身体文化系教育サブプログラム</p> <p>身体文化系教育サブプログラム科目の全ての科目（10単位）を必修とし履修する。 さらに、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>・生活創造系教育サブプログラム</p> <p>生活創造系教育サブプログラム科目の「技術科教育の理論と実践」（2単位）、「技術科教育の授業内容探求A」（2単位）、「技術科教育の授業内容探求B」（2単位）、「家庭科教育の理論と実践」（2単位）、「家庭科教育の授業内容探求A」（2単位）、「家庭科教育の授業内容探求B」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修とし履修する。 また、「技術科教育の教材研究と実践A」（2単位）、「技術科教育の教材研究と実践B」（2単位）、「家庭科教育の教材研究と実践A」（2単位）、「家庭科教育の教材研究と実践B」（2単位）の4科目から2科目4単位を選択必修として履修する。 さらに、前述の選択必修で履修した5科目（10単位）以外の生活創造系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現代的・地域的教育課題の共同探求」は全てのサブプログラムの選択科目とし、修得単位を修得要件に算入する。</li> <li>・「探求活動演習Ⅰ」と「探求活動演習Ⅱ」は全てのサブプログラムの自由科目とし、単位認定できるが、修得要件に算入しない。</li> <li>・1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、42単位とする。（ただし、短期履修制度により1年間で修了する者が登録することができる単位数の上限は、56単位とする。）</li> </ul> <p>合計46単位を修得する。（ただし、短期履修制度により1年間で修了する者は合計40単位を修得する。）</p>	<p>・社会系教育サブプログラム</p> <p>社会系教育サブプログラム科目の全ての科目（10単位）を必修とし履修する。 さらに、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>・自然科学系教育サブプログラム</p> <p>自然科学系教育サブプログラム科目の「自然科学系教育の理論と実践A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の理論と実践B（理科）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求B（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求C（理科）」（2単位）、「自然科学系教育の授業内容探求D（理科）」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修として履修する。 また、「自然科学系教育の教材研究と実践A（算数・数学）」（2単位）、「自然科学系教育の教材研究と実践B（算数・数学）」（2単位）、「中核的理科教員（CST）養成講座」（4単位）の3科目から4単位を選択必修として履修する。 さらに、前述の選択必修で履修した10単位以外の自然科学系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>・芸術系教育サブプログラム</p> <p>芸術系教育サブプログラム科目の「芸術系教育の理論と実践A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の理論と実践B（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求B（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求C（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の授業内容探求D（図工・美術）」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修として履修する。 また、「芸術系教育の教材研究と実践A（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践B（音楽）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践C（図工・美術）」（2単位）、「芸術系教育の教材研究と実践D（図工・美術）」（2単位）の4科目から2科目4単位を選択必修として履修する。 さらに、前述の選択必修で履修した5科目（10単位）以外の芸術系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>・身体文化系教育サブプログラム</p> <p>身体文化系教育サブプログラム科目の全ての科目（10単位）を必修とし履修する。 さらに、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>・生活創造系教育サブプログラム</p> <p>生活創造系教育サブプログラム科目の「技術科教育の理論と実践」（2単位）、「技術科教育の授業内容探求A」（2単位）、「技術科教育の授業内容探求B」（2単位）、「家庭科教育の理論と実践」（2単位）、「家庭科教育の授業内容探求A」（2単位）、「家庭科教育の授業内容探求B」（2単位）の6科目から3科目（6単位）を選択必修とし履修する。 また、「技術科教育の教材研究と実践A」（2単位）、「技術科教育の教材研究と実践B」（2単位）、「家庭科教育の教材研究と実践A」（2単位）、「家庭科教育の教材研究と実践B」（2単位）の4科目から2科目4単位を選択必修として履修する。 さらに、前述の選択必修で履修した5科目（10単位）以外の生活創造系教育サブプログラム科目、他のサブプログラムのサブプログラム科目、「現代的・地域的教育課題の共同探求」（2単位）の中から6単位を選択して履修する。 以上、計16単位を履修する。</p> <p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「現代的・地域的教育課題の共同探求」は全てのサブプログラムの選択科目とし、修得単位を修得要件に算入する。</li> <li>・「探求活動演習Ⅰ」と「探求活動演習Ⅱ」は全てのサブプログラムの自由科目とし、単位認定できるが、修得要件に算入しない。</li> <li>・1年間に履修科目として登録することができる単位数の上限は、42単位とする。（ただし、短期履修制度により1年間で修了する者が登録することができる単位数の上限は、56単位とする。）</li> </ul> <p>合計46単位を修得する。（ただし、短期履修制度により1年間で修了する者は合計40単位を修得する。）</p>
---	---

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために**未開講となった科目**についても**科目名の後ろに「(未開講)」として記入**してください。
- ・ **1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入**してください。
- ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。  
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「**臨地実務実習**」による授業科目には「【臨】」、「**連携実務実習**」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

**【令和3年度】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・開講講義数のバランスのために、「特別支援教育の課題探求」の配当年次を「1①～②」から「1③～④」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「学校課題改善演習」の配当年次を「1①～②」から「1③～④」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「心理学的方法の活用と探求」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「カウンセリング実践演習」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「教育工学開発演習」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「障害児教育実践の課題探求法」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「インクルーシブ教育演習」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「学校保健の理論と実践の探求」の配当年次を「1③～④」から「1集中」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「保健教育の実践と課題の探求」の配当年次を「1③～④」から「1集中」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「保健管理の実践と課題の探求」の配当年次を「1③～④」から「1集中」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「養護教諭の専門家としての成長」の配当年次を「1③～④」から「1集中」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「教育生理の臨床と子供の成長課題」の配当年次を「1③～④」から「1集中」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「&lt;教育—社会—環境&gt;基礎論」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「子ども認識の思想と構造」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「言語文化系教育の理論と実践B（英語）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「言語文化系教育の授業内容探求C（英語）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「言語文化系教育の教材研究と実践D（英語）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「社会科教育の理論と実践A」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「自然科学系教育の授業内容探求B（算数・数学）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「自然科学系教育の授業内容探求C（理科）」の配当年次を「1③～④」から「1集中」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「自然科学系教育の授業内容探求D（理科）」の配当年次を「1③～④」から「1集中」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「中核的理科教員（CST）養成講座」の配当年次を「1③～④」から「1集中」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「芸術系教育の理論と実践A（音楽）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「芸術系教育の理論と実践B（図工・美術）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「芸術系教育の授業内容探求A（音楽）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「芸術系教育の授業内容探求C（図工・美術）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「芸術系教育の教材研究と実践A（音楽）」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「体育・保健体育科教育の理論と実践A」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・開講講義数のバランスのために、「体育・保健体育科教育の教材研究と実践A」の配当年次を「1③～④」から「1①～②」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「教育課程の課題探求」の兼任・兼担を「1」から「2」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「教科の教育課程構成論」の兼任・兼担を「55」から「54」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「教科指導の課題探求」の専任教員の配置を「教授1、准教授1」から「教授1、准教授2」に、兼任・兼担を「9」から「15」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「教科指導の発展・応用」の専任教員等の配置を「教授0、准教授3」を「教授1、准教授3」に、兼任・兼担を「45」から「48」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「生徒指導・教育相談の課題探求」の兼任・兼担を「1」から「0」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「学校課題改善演習」の兼任・兼担を「4」から「3」に変更。</li> <li>・「実地研究Ⅰ」の兼任・兼担を「69」から「67」に変更。</li> <li>・「実地研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授9、准教授4」から「教授8、准教授4」に、兼任・兼担を「69」から「67」に変更。</li> <li>・「課題研究Ⅰ」の兼任・兼担を「69」から「66」に変更。</li> <li>・「課題研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授9、准教授4」から「教授8、准教授4」に、兼任・兼担を「69」から「66」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「学級づくり論」の専任教員等の配置を「教授3、准教授1」から「教授2、准教授1」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「心理学的方法の活用と探求」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に、兼任・兼担を「2」から「1」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「社会科教育の授業内容探求」の兼任・兼担を「6」から「7」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「自然科学系教育の教材研究と実践A（算数・数学）」の兼任・兼担を「2」から「3」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「自然科学系教育の教材研究と実践B（算数・数学）」の兼任・兼担を「2」から「3」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「芸術系教育の理論と実践B（図工・美術）」の兼任教員の配置を「5」から「4」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「芸術系教育の授業内容探求C（図工・美術）」の兼任・兼担を「5」から「4」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「芸術系教育の授業内容探求D（図工・美術）」の兼任・兼担を「5」から「4」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「芸術系教育の教材研究と実践C（図工・美術）」の兼任・兼担を「5」から「4」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「芸術系教育の教材研究と実践D（図工・美術）」の兼任・兼担を「5」から「4」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「体育・保健体育科教育の理論と実践B」の兼任・兼担を「2」から「1」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「体育・保健体育科教育の教材研究と実践B」の兼任・兼担を「3」から「2」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「探究活動演習Ⅰ」の兼任・兼担を「72」から「69」に変更。</li> <li>・講義分担の変更により、「探究活動演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授12、准教授6」から「教授11、准教授6」に、兼任・兼担を「72」から「69」に変更。</li> </ul>
--

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
5	98	2	105	5	98	2	105	
	科目	科目	科目	[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	共通・実習・その他	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	障害児心理学の実践と課題B	2	1③~④	その他	選択	隔年開講のため。 令和4年度に開講する。
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

次年度に、受講可能であるため、学生の就学上の問題はない。学生に対しては、教務システム及び掲示板を利用して周知を行った。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{105} = \boxed{0.95} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	無償譲受(11㎡)のため(3)			
	校舎敷地	167,509 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	167,509 ㎡				
	運動場用地	95,531 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	95,531 ㎡				
	小 計	263,040 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	263,040 ㎡				
	そ の 他	131,515 <del>131,504</del> ㎡	0 ㎡	0 ㎡	131,515 <del>131,504</del> ㎡				
	合 計	394,555 <del>394,544</del> ㎡	0 ㎡	0 ㎡	394,555 <del>394,544</del> ㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	140,745 ㎡ ( 140,745 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	140,745 ㎡ ( 140,745 ㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 改修他のため(3)			
	92 室	87 82 室	279 282 室	4 室 (補助職員 0 人)	2 室 (補助職員 0 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	教育学研究科 教職実践専攻			18 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	専攻単位での特定不能 なため、大学全体の数	
		〔うち外国書〕 冊	〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					点
	教育学研究科 教職実践専攻	895,210 [276,263] (903,761 [276,939])	22,065 [5,559] (22,199 [5,564])	13,579 [13,567] (13,541 [13,530])	2,484 (2,505)	4,202 (4,688)	0 (0)		
	計	895,210 [276,263] (903,761 [276,939])	22,065 [5,559] (22,199 [5,564])	13,579 [13,567] (13,541 [13,530])	2,484 (2,505)	4,202 (4,688)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	8,439 ㎡		919		911,944				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	4,474 ㎡		野球場		テニスコート他				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員 1 人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号(その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は AC 対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和 3 年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。



4. 既設大学等の状況

大学の名称	埼玉大学						学生募集停止学科数	10	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
<b>【学部】</b>											
教養学部						1.06	1.08			埼玉県さいたま市 校区下大久保255	
教養学科	4	160	3年次30	700	学士(教養)	1.06	1.08	—	昭和40		
経済学部										同上	
(昼) 経済学科	4	280	3年次10	1,140	学士(経済学)	1.07	1.10	—	平成27		
(夜) 経済学科	4	15	—	60		1.06	1.06	—	平成27		
教育学部						1.02	1.01			同上	
学校教育教員養成課程	4	360	—	1,440	学士(教育学)	1.02	1.01	—	平成11		平成30年度より 入学定員410→360
養護教諭養成課程	4	20	—	80		1.02	1.05	—	平成18		
理学部						1.03	1.03			同上	
数学科	4	40	—	160		1.07	1.07	—	平成7		
物理学科	4	40	—	160		1.02	1.00	—	平成7		
基礎化学科	4	50	—	200	学士(理学)	1.00	1.00	—	平成7		
分子生物学科	4	40	—	160		1.04	1.05	—	平成7		
生体制御学科	4	40	—	160		1.03	1.05	—	平成7		
工学部						1.02	1.01			同上	
機械工学・システム工学	4	110	—	440		1.03	1.02	—	平成30		
電気電子物理工学科	4	110	—	440		1.01	1.00	—	平成30		
情報工学科	4	80	—	320	学士(工学)	1.04	1.00	—	平成30		
応用化学科	4	90	—	360		1.03	1.01	—	平成30		
環境社会工学	4	100	—	400		1.01	1.01	—	平成30		
機械工学科	4	—	—	—		—	—	—	平成5		平成30年度より 学生募集停止
電気電子システム工学科	4	—	—	—		—	—	—	平成7		平成30年度より 学生募集停止
情報システム工学科	4	—	—	—		—	—	—	平成7		平成30年度より 学生募集停止
応用化学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	—	—	平成4		平成30年度より 学生募集停止
機能材料工学科	4	—	—	—		—	—	—	平成4		平成30年度より 学生募集停止
建設工学科	4	—	—	—		—	—	—	平成5		平成30年度より 学生募集停止
環境共生学科	4	—	—	—		—	—	—	平成20		平成30年度より 学生募集停止

【大学院（修士・博士前期）】										埼玉県さいたま市 桜区下大久保255		
人文社会科学研究科												
文化環境専攻	2	20	—	40	修士 (学術)	1.02	0.85	—	平成27			
国際日本アソシエイト専攻	2	38	—	76	修士 (学術) (経済学)	0.95	0.76	—	平成27			
経済経営専攻	2	22	—	44	修士 (経済学) (経営学)	0.92	1.04	—	平成27			
教育学研究科												同上
学校教育専攻	2	—	—	—	修士 (教育学)	—	—	—	平成2			
教科教育専攻	2	—	—	—		—	—	—	平成2			
理工学研究科												同上
生命科学系専攻	2	55	—	110		0.94	0.98	—	平成18			
物理機能系専攻	2	59	—	118		0.99	1.00	—	平成18			
化学系専攻	2	65	—	130	修士 (理学) (工学)	1.06	1.09	—	平成18			
数理電子情報系専攻	2	108	—	216		1.03	1.00	—	平成18			
機械科学系専攻	2	59	—	118		1.22	1.20	—	平成18			
環境システム工学系専攻	2	62	—	124		1.07	1.01	—	平成18			
【大学院（博士後期）】										同上		
人文社会科学研究科												
日本アソシエイト文化専攻	3	4	—	12	博士 (学術)	1.25	1.25	—	平成27			
経済経営専攻	3	12	—	36	博士 (経済学) (経営学)	0.97	1.08	—	平成27			
理工学研究科												
理工学専攻	3	56	—	168	博士 (学術) (理学) (工学)	0.88	0.58	—	平成18			
【大学院（専門職学位）】										同上		
教育学研究科												
教職実践専攻	2	52	—	52	教職修士 (専門職)	0.90	0.90	—	令和3			
教職実践専攻	2	—	—	—	教職修士 (専門職)	—	—	—	平成28			

令和3年度より  
学生募集停止  
令和3年度より  
学生募集停止

令和3年度より  
学生募集停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
（専攻科及び別科を除く）。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。  
・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
・「平均入学定員超過率」には、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<大学院教育学研究科 教職実践専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	馬場 久志 <令和3年4月> 修士(教育学)	専他	教授	馬場 久志 <令和3年4月> 修士(教育学)
		教育課程の課題探求 学校構想の理論と実践 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学校と児童生徒理解の心理学 心理・学習評価演習 探求活動演習 I 探求活動演習 II			教育課程の課題探求 学校構想の理論と実践 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学校と児童生徒理解の心理学 心理・学習評価演習 探求活動演習 I 探求活動演習 II <b>心理学的方法の活用と探求</b>
専他	教授	安藤 聡彦 <令和3年4月> 博士(社会学)	専他	教授	安藤 聡彦 <令和3年4月> 博士(社会学)
		学校と教職の課題探求 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II <教育-社会-環境>基礎論 探求活動演習 I 探求活動演習 II			学校と教職の課題探求 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II <教育-社会-環境>基礎論 探求活動演習 I 探求活動演習 II
専他	教授	船橋 一男 <令和3年4月> 文学修士	専他	教授	船橋 一男 <令和3年4月> 文学修士
		教育課程の課題探求 学校構想の理論と実践 学校と教職の課題探求 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学校と社会論 総合・道徳開発演習 探求活動演習 I 探求活動演習 II			教育課程の課題探求 学校構想の理論と実践 学校と教職の課題探求 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学校と社会論 総合・道徳開発演習 探求活動演習 I 探求活動演習 II
専他	教授	岩川 直樹 <令和3年4月> 修士(教育学)	専他	教授	岩川 直樹 <令和3年4月> 修士(教育学)
		教育課程の課題探求 学校構想の理論と実践 学校と教職の課題探求 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学級づくり論 総合・道徳開発演習 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習 I 探求活動演習 II			教育課程の課題探求 学校構想の理論と実践 学校と教職の課題探求 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学級づくり論 総合・道徳開発演習 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習 I 探求活動演習 II
専他	教授	戸部 秀之 <令和3年4月> 博士(教育学)	専他	教授	戸部 秀之 <令和3年4月> 博士(教育学)
		子供の発達と保健室における 養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の 実践的課題 実地研究 I (学校保健) 実地研究 II (学校保健) 課題研究 I (学校保健) 課題研究 II (学校保健) 学校保健の理論と実践の探求 保健教育の実践と課題の探求 探求活動演習 I 探求活動演習 II			子供の発達と保健室における 養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の 実践的課題 実地研究 I (学校保健) 実地研究 II (学校保健) 課題研究 I (学校保健) 課題研究 II (学校保健) 学校保健の理論と実践の探求 保健教育の実践と課題の探求 探求活動演習 I 探求活動演習 II
専他	教授	宇佐見 香代 <令和3年4月> 博士(学術)	専他	教授	宇佐見 香代 <令和3年4月> 博士(学術)
		教育課程の課題探求 学校と教職の課題探求 学校課題改善演習※ 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学級づくり論 総合・道徳開発演習 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習 I 探求活動演習 II			教育課程の課題探求 学校と教職の課題探求 学校課題改善演習 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学級づくり論 総合・道徳開発演習 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習 I 探求活動演習 II
専他	教授	関 由起子 <令和3年4月> 博士(保健学)	専他	教授	関 由起子 <令和3年4月> 博士(保健学)
		子供の発達と保健室における 養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の 実践的課題 実地研究 I (学校保健) 実地研究 II (学校保健) 課題研究 I (学校保健) 課題研究 II (学校保健) 保健管理の実践と課題の探求 教育生理の臨床と子供の成長課題 探求活動演習 I 探求活動演習 II			子供の発達と保健室における 養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の 実践的課題 実地研究 I (学校保健) 実地研究 II (学校保健) 課題研究 I (学校保健) 課題研究 II (学校保健) 保健管理の実践と課題の探求 教育生理の臨床と子供の成長課題 探求活動演習 I 探求活動演習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
専他	教授	名越 斉子 <令和3年4月> 修士(教育学)	専他	教授	名越 斉子 <令和3年4月> 修士(教育学)
		特別支援教育の課題探求 生徒指導・教育相談の課題探求 特別支援教育コーディネータ演習 実地研究Ⅰ(特別支援教育) 実地研究Ⅱ(特別支援教育) 課題研究Ⅰ(特別支援教育) 課題研究Ⅱ(特別支援教育) 発達臨床アセスメント演習 障害児教育実践の課題探求法 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			特別支援教育の課題探求 生徒指導・教育相談の課題探求 特別支援教育コーディネータ演習 実地研究Ⅰ(特別支援教育) 実地研究Ⅱ(特別支援教育) 課題研究Ⅰ(特別支援教育) 課題研究Ⅱ(特別支援教育) 発達臨床アセスメント演習 障害児教育実践の課題探求法 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
専他	准教授	磯田 三津子 <令和3年4月> 博士(教育学)	専他	准教授	磯田 三津子 <令和3年4月> 博士(教育学)
		学校構想の理論と実践 学校と教職の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 学級づくり論 総合・道徳開発演習 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			学校構想の理論と実践 学校と教職の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 学級づくり論 総合・道徳開発演習 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
専他	准教授	七木田 文彦 <令和3年4月> 博士(教育学)	専他	准教授	七木田 文彦 <令和3年4月> 博士(教育学)
		子供の発達と保健室における 養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の実践 的課題 実地研究Ⅰ(学校保健) 実地研究Ⅱ(学校保健) 課題研究Ⅰ(学校保健) 課題研究Ⅱ(学校保健) 保健教育の実践と課題の探求 養護教諭の専門家としての成長 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			子供の発達と保健室における 養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の実践 的課題 実地研究Ⅰ(学校保健) 実地研究Ⅱ(学校保健) 課題研究Ⅰ(学校保健) 課題研究Ⅱ(学校保健) 保健教育の実践と課題の探求 養護教諭の専門家としての成長 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
実専	教授	長江 清和 <令和3年4月> 修士(教育学)	実専	教授	長江 清和 <令和3年4月> 修士(教育学)
		生徒指導・教育相談の課題探求 特別支援教育コーディネータ演習 学校と教職の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 特別支援教育実践研究 障害児心理学の実践と課題A 障害児心理学の実践と課題B 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			生徒指導・教育相談の課題探求 特別支援教育コーディネータ演習 学校と教職の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 特別支援教育実践研究 障害児心理学の実践と課題A 障害児心理学の実践と課題B 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
実専	教授	石田 耕一 <令和3年4月> 教育学士	実専	教授	石田 耕一 <令和3年4月> 教育学士
		教科指導の課題探求 学校と教職の課題探求 学校課題改善演習 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科指導の課題探求 学校と教職の課題探求 学校課題改善演習 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の発展・応用</b>
実専	教授	安原 輝彦 <令和3年4月> 修士(教育学)	実専	教授	安原 輝彦 <令和3年4月> 修士(教育学)
		教育経営の課題探求 学校と教職の課題探求 学校課題改善演習 実地研究Ⅰ 課題研究Ⅰ 学級づくり論 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習Ⅰ			教育経営の課題探求 学校と教職の課題探求 学校課題改善演習 実地研究Ⅰ 課題研究Ⅰ 現代的・地域的教育課題の共同探求 探求活動演習Ⅰ
実専	准教授	大沢 裕 <令和3年4月> 学士(教育学)	実専	准教授	大沢 裕 <令和3年4月> 学士(教育学)
		教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
実専	准教授	中島 雅子 <令和3年4月> 博士(学校教育学)	実専	准教授	中島 雅子 <令和3年4月> 博士(学校教育学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の理論と実践B (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の理論と実践B (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の課題探求</b>
実専	准教授	石川 泰成 <令和3年4月> 教育学士	実専	准教授	石川 泰成 <令和3年4月> 教育学士
		教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求 体育・保健体育科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求 体育・保健体育科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
実専	准教授	齋藤 千景 <令和3年4月> 修士(教育学)	実専	准教授	齋藤 千景 <令和3年4月> 修士(教育学)
		子供の発達と保健室における養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の実践的課題 実地研究Ⅰ(学校保健) 実地研究Ⅱ(学校保健) 課題研究Ⅰ(学校保健) 課題研究Ⅱ(学校保健) 学校保健の理論と実践の探求 養護教諭の専門家としての成長 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			子供の発達と保健室における養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の実践的課題 実地研究Ⅰ(学校保健) 実地研究Ⅱ(学校保健) 課題研究Ⅰ(学校保健) 課題研究Ⅱ(学校保健) 学校保健の理論と実践の探求 養護教諭の専門家としての成長 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
実み	教授	櫻井 康博 <令和3年4月> 教育学修士	実み	教授	櫻井 康博 <令和3年4月> 教育学修士
		教育課程の課題探求 学校と教職の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教育課程の課題探求 学校と教職の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授(研究科長)	薄井 俊二 <令和3年4月> 博士(文学)	兼任	教授(研究科長)	薄井 俊二 <令和3年4月> 博士(文学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A (国語) 言語文化系教育の授業内容探求A (国語) 言語文化系教育の教材研究と実践B (国語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A (国語) 言語文化系教育の授業内容探求A (国語) 言語文化系教育の教材研究と実践B (国語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	蛭多 令子 <令和3年4月> 学術博士	兼任	教授	蛭多 令子 <令和3年4月> 学術博士
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求B(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践A(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践B(音楽) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求B(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践A(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践B(音楽) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	庄司 康生 <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	教授	庄司 康生 <令和3年4月> 修士(教育学)
		子ども共育の理論と実践 教育経営の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 保育内容と指導の課題探求 幼児の音楽表現の開発探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			子ども共育の理論と実践 教育経営の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 保育内容と指導の課題探求 幼児の音楽表現の開発探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	金子 康子 <令和3年4月> Ph.D (アメリカ) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の授業内容探求 D (理科) 中核的理科教員 (CST) 養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	金子 康子 <令和3年4月> Ph.D (アメリカ) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の授業内容探求 D (理科) 中核的理科教員 (CST) 養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	池内 慈朗 <令和3年4月> 博士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 芸術系教育の理論と実践 B (図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求 C (図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求 D (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践 C (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践 D (図工・美術) 探求活動演習 I 探求活動演習 II			
兼任	教授	川端 博子 <令和3年4月> 博士(被服環境学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 家庭科教育の授業内容探求 B 家庭科教育の教材研究と実践 B 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	川端 博子 <令和3年4月> 博士(被服環境学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 家庭科教育の授業内容探求 B 家庭科教育の教材研究と実践 B 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	首藤 敏元 <令和3年4月> 博士(心理学) 子ども共育の理論と実践 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 子どもの発達と教育相談の課題探求 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	首藤 敏元 <令和3年4月> 博士(心理学) 子ども共育の理論と実践 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 子どもの発達と教育相談の課題探求 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	近藤 一史 <令和3年4月> 理学博士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の授業内容探求 C (理科) 中核的理科教員 (CST) 養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	近藤 一史 <令和3年4月> 理学博士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の授業内容探求 C (理科) 中核的理科教員 (CST) 養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	小澤 基弘 <令和3年4月> 博士(芸術学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 芸術系教育の理論と実践 B (図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求 C (図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求 D (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践 C (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践 D (図工・美術) 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	小澤 基弘 <令和3年4月> 博士(芸術学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 芸術系教育の理論と実践 B (図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求 C (図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求 D (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践 C (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践 D (図工・美術) 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	堀田 香織 <令和3年4月> 修士(教育学) 生徒指導・教育相談の課題探求 学校課題改善演習 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学校と児童生徒理解の心理学 学校臨床心理学実演演習 心理学的方法の活用と探求 カウンセリング実践演習 探求活動演習 I 探求活動演習 II			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	有川 秀之 <令和3年4月> 体育学修士 教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の理論と実践B 体育・保健体育科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ	兼任	教授	有川 秀之 <令和3年4月> 体育学修士 教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の理論と実践B 体育・保健体育科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	戸田 功 <令和3年4月> 教育学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A (国語) 言語文化系教育の理論と実践B (英語) 言語文化系教育の授業内容探求A (国語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ	兼任	教授	戸田 功 <令和3年4月> 教育学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A (国語) 言語文化系教育の理論と実践B (英語) 言語文化系教育の授業内容探求A (国語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の課題探求</b>
兼任	教授	山本 利一 <令和3年4月> 博士(学校教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求B 技術科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ	兼任	教授	山本 利一 <令和3年4月> 博士(学校教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求B 技術科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	細川 江利子 <令和3年4月> 文学修士 教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の理論と実践A 体育・保健体育科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ	兼任	教授	細川 江利子 <令和3年4月> 文学修士 教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の理論と実践A 体育・保健体育科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	河村 美穂 <令和3年4月> 博士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 家庭科教育の理論と実践 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ	兼任	教授	河村 美穂 <令和3年4月> 博士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 家庭科教育の理論と実践 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の発展・応用</b>
兼任	教授	小林 聡 <令和3年4月> 文学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の理論と実践B 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ	兼任	教授	小林 聡 <令和3年4月> 文学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の理論と実践B 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	福岡 寛顕 <令和3年4月> 薬学博士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の授業内容探求C (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ	兼任	教授	福岡 寛顕 <令和3年4月> 薬学博士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の授業内容探求C (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	二宮 裕之 <令和3年4月> 博士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の理論と実践 A (算数・数学) 自然科学系教育の授業内容探求 A (算数・数学) 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	二宮 裕之 <令和3年4月> 博士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の理論と実践 A (算数・数学) 自然科学系教育の授業内容探求 A (算数・数学) 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	田代 美江子 <令和3年4月> 修士(教育学) 子ども共育の理論と実践 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 子ども認識の思想と構造 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	田代 美江子 <令和3年4月> 修士(教育学) 子ども共育の理論と実践 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 子ども認識の思想と構造 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	武田 ちあき <令和3年4月> 文学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 言語文化系教育の授業内容探求 C (英語) 言語文化系教育の教材研究と実践 C (英語) 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	武田 ちあき <令和3年4月> 文学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 言語文化系教育の授業内容探求 C (英語) 言語文化系教育の教材研究と実践 C (英語) 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	飯泉 健司 <令和3年4月> 文学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 言語文化系教育の理論と実践 A (国語) 言語文化系教育の授業内容探求 A (国語) 言語文化系教育の教材研究と実践 A (国語) 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	飯泉 健司 <令和3年4月> 文学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 言語文化系教育の理論と実践 A (国語) 言語文化系教育の授業内容探求 A (国語) 言語文化系教育の教材研究と実践 A (国語) 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	岡本 和明 <令和3年4月> 博士(理学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の授業内容探求 D (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	岡本 和明 <令和3年4月> 博士(理学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の授業内容探求 D (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	小倉 康 <令和3年4月> 修士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の理論と実践 B (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	小倉 康 <令和3年4月> 修士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	吉川 はる奈 <令和3年4月> 家政学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 家庭科教育の授業内容探求 A 家庭科教育の教材研究と実践 A 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	吉川 はる奈 <令和3年4月> 家政学修士 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 家庭科教育の授業内容探求 A 家庭科教育の教材研究と実践 A 探求活動演習 I 探求活動演習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	飛田 明彦 <令和3年4月> 理学博士	兼任	教授	飛田 明彦 <令和3年4月> 理学博士
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の教材研究と実践A (算数・数学) 自然科学系教育の教材研究と実践B (算数・数学) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の教材研究と実践A (算数・数学) 自然科学系教育の教材研究と実践B (算数・数学) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	重川 純子 <令和3年4月> 家政学修士	兼任	教授	重川 純子 <令和3年4月> 家政学修士
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 家庭科教育の授業内容探求A 家庭科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 家庭科教育の授業内容探求A 家庭科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	竹澤 栄祐 <令和3年4月> 博士(音楽)	兼任	教授	竹澤 栄祐 <令和3年4月> 博士(音楽)
		教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求B(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践A(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践B(音楽) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求B(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践A(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践B(音楽) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	高須賀 昌志 <令和3年4月> 修士(美術)	兼任	教授	高須賀 昌志 <令和3年4月> 修士(美術)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践B(図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求C(図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求D(図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践C(図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践D(図工・美術) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践B(図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求C(図工・美術) 芸術系教育の授業内容探求D(図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践C(図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践D(図工・美術) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	及川 賢 <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	教授	及川 賢 <令和3年4月> 修士(教育学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践B(英語) 言語文化系教育の授業内容探求C(英語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践B(英語) 言語文化系教育の授業内容探求C(英語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	教授	浅田 茂裕 <令和3年4月> 農学博士	兼任	教授	浅田 茂裕 <令和3年4月> 農学博士
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求A 技術科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求A 技術科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の課題探求</b>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	大向 隆三 <令和3年4月> 博士(工学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の授業内容探求 C (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	大向 隆三 <令和3年4月> 博士(工学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 自然科学系教育の授業内容探求 C (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	葉石 光一 <令和3年4月> 博士(教育学) 特別支援教育の課題探求 実地研究 I (特別支援教育) 実地研究 II (特別支援教育) 課題研究 I (特別支援教育) 課題研究 II (特別支援教育) 障害児教育実践の課題探求法 障害児心理学の実践と課題 A 障害児心理学の実践と課題 B 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	葉石 光一 <令和3年4月> 博士(教育学) 特別支援教育の課題探求 実地研究 I (特別支援教育) 実地研究 II (特別支援教育) 課題研究 I (特別支援教育) 課題研究 II (特別支援教育) 障害児教育実践の課題探求法 障害児心理学の実践と課題 A 障害児心理学の実践と課題 B 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	桐谷 正信 <令和3年4月> 博士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 社会科教育の理論と実践 A 社会科教育の理論と実践 B 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	桐谷 正信 <令和3年4月> 博士(教育学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 社会科教育の理論と実践 A 社会科教育の理論と実践 B 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	教授	谷 謙二 <令和3年4月> 博士(地理学) 教科の教育課程構成論 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 社会科教育の理論と実践 A 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践 A 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	教授	谷 謙二 <令和3年4月> 博士(地理学) 教科の教育課程構成論 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 社会科教育の理論と実践 A 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践 A 探求活動演習 I 探求活動演習 II <b>教科指導の課題探求</b> <b>教科指導の発展・応用</b>
兼任	准教授	亀崎 美苗 <令和3年4月> 博士(工学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 家庭科教育の理論と実践 家庭科教育の授業内容探求 A 家庭科教育の教材研究と実践 A 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	准教授	亀崎 美苗 <令和3年4月> 博士(工学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 家庭科教育の理論と実践 家庭科教育の授業内容探求 A 家庭科教育の教材研究と実践 A 探求活動演習 I 探求活動演習 II
兼任	准教授	椋田 容世 <令和3年4月> 修士(児童学) 学校課題改善演習 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学校臨床心理学実践演習 カウンセリング実践演習 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	准教授	椋田 容世 <令和3年4月> 修士(児童学) 学校課題改善演習 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 学校臨床心理学実践演習 カウンセリング実践演習 探求活動演習 I 探求活動演習 II <b>学校と児童生徒理解の心理学</b>
兼任	准教授	島田 玲子 <令和3年4月> 博士(水産学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 家庭科教育の授業内容探求 B 家庭科教育の教材研究と実践 B 探求活動演習 I 探求活動演習 II	兼任	准教授	島田 玲子 <令和3年4月> 博士(水産学) 教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II 課題研究 I 課題研究 II 家庭科教育の授業内容探求 B 家庭科教育の教材研究と実践 B 探求活動演習 I 探求活動演習 II

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	山本 良 <令和3年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	山本 良 <令和3年4月> 博士(文学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A (国語) 言語文化系教育の授業内容探求B (国語) 言語文化系教育の教材研究と実践 A(国語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A (国語) 言語文化系教育の授業内容探求B (国語) 言語文化系教育の教材研究と実践 A(国語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の課題探求</b>
兼任	准教授	北田 佳子 <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	准教授	北田 佳子 <令和3年4月> 修士(教育学)
		教育経営の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 子ども支援の実践と制度 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教育経営の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 子ども支援の実践と制度 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	松本 真 <令和3年4月> 修士(体育学)	兼任	准教授	松本 真 <令和3年4月> 修士(体育学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の理論と実践 A 体育・保健体育科教育の教材研究 と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の理論と実践 A 体育・保健体育科教育の教材研究 と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	内海 能亜 <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	教授	内海 能亜 <令和3年4月> 博士(工学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求A 技術科教育の授業内容探求B 技術科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求A 技術科教育の授業内容探求B 技術科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	山田 恵吾 <令和3年4月> 博士(教育学)	兼任	准教授	山田 恵吾 <令和3年4月> 博士(教育学)
		学校と教職の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 子ども認識の思想と構造 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			学校と教職の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 子ども認識の思想と構造 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	石上 城行 <令和3年4月> 修士(美術)	兼任	准教授	石上 城行 <令和3年4月> 修士(美術)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践B(図 工・美術) 芸術系教育の授業内容探求C(図 工・美術) 芸術系教育の授業内容探求D(図 工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践C (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践D (図工・美術) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践B(図 工・美術) 芸術系教育の授業内容探求C(図 工・美術) 芸術系教育の授業内容探求D(図 工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践C (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践D (図工・美術) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	内田 裕子 <令和3年4月> 博士(芸術学)	兼任	准教授	内田 裕子 <令和3年4月> 博士(芸術学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践B(図 工・美術) 芸術系教育の授業内容探求C(図 工・美術) 芸術系教育の授業内容探求D(図 工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践C (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践D (図工・美術) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践B(図 工・美術) 芸術系教育の授業内容探求C(図 工・美術) 芸術系教育の授業内容探求D(図 工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践C (図工・美術) 芸術系教育の教材研究と実践D (図工・美術) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	松岡 圭介 <令和3年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	松岡 圭介 <令和3年4月> 博士(理学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の授業内容探求C (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の授業内容探求C (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	萩生田 伸子 <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	萩生田 伸子 <令和3年4月> 博士(学術)
		学校課題改善演習 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 心理学的方法の活用と探求 心理・学習評価演習 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			学校課題改善演習 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 心理学的方法の活用と探求 心理・学習評価演習 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	田子内 健介 <令和3年4月> 修士(文学)	兼任	准教授	田子内 健介 <令和3年4月> 修士(文学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の授業内容探求D (英語) 言語文化系教育の教材研究と実践 D(英語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の授業内容探求D (英語) 言語文化系教育の教材研究と実践 D(英語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	菊原 伸郎 <令和3年4月> 修士(体育学)	兼任	准教授	
		教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の理論と実践 B 体育・保健体育科教育の教材研究 と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			
兼任	准教授	野村 泰朗 <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	野村 泰朗 <令和3年4月> 博士(学術)
		教育課程の課題探求 学校課題改善演習 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 学校と社会論 教育工学開発演習 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教育課程の課題探求 学校課題改善演習 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 学校と社会論 教育工学開発演習 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	寺園 さおり <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	准教授	寺園 さおり <令和3年4月> 修士(教育学)
		子ども共育の理論と実践 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 子どもの発達と教育相談の課題探 求 子育て支援開発探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			子ども共育の理論と実践 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 子どもの発達と教育相談の課題探 求 子育て支援開発探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	小野 和彦 <令和3年4月> 博士(音楽)	兼任	准教授	小野 和彦 <令和3年4月> 博士(音楽)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践A(音 楽) 芸術系教育の授業内容探求A(音 楽) 芸術系教育の授業内容探求B(音 楽) 芸術系教育の教材研究と実践A (音楽) 芸術系教育の教材研究と実践B (音楽) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践A(音 楽) 芸術系教育の授業内容探求A(音 楽) 芸術系教育の授業内容探求B(音 楽) 芸術系教育の教材研究と実践A (音楽) 芸術系教育の教材研究と実践B (音楽) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	萩窪 光慈 <令和3年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	萩窪 光慈 <令和3年4月> 博士(工学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求B 技術科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求B 技術科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	日比野 拓 <令和3年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	日比野 拓 <令和3年4月> 博士(理学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の授業内容探求D (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の授業内容探求D (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	本橋 幸康 <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	准教授	本橋 幸康 <令和3年4月> 修士(教育学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A (国語) 言語文化系教育の授業内容探求B (国語) 言語文化系教育の授業内容探求D (英語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A (国語) 言語文化系教育の授業内容探求B (国語) 言語文化系教育の授業内容探求D (英語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	清水 亮 <令和3年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	清水 亮 <令和3年4月> 博士(文学)
		教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	大朝 由美子 <令和3年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	大朝 由美子 <令和3年4月> 博士(理学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の授業内容探求D (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の授業内容探求D (理科) 中核的理科教員(CST)養成講座 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	西尾 尚美 <令和3年4月> 博士(人間科学)	兼任	准教授	西尾 尚美 <令和3年4月> 博士(人間科学)
		子供の発育発達と保健室における 養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の実践 的課題 実地研究Ⅰ(学校保健) 実地研究Ⅱ(学校保健) 課題研究Ⅰ(学校保健) 課題研究Ⅱ(学校保健) 保健管理の実践と課題の探求 教育生理の臨床と子供の成長課題 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			子供の発育発達と保健室における 養護教諭の実践 現代の健康問題と学校保健の実践 的課題 実地研究Ⅰ(学校保健) 実地研究Ⅱ(学校保健) 課題研究Ⅰ(学校保健) 課題研究Ⅱ(学校保健) 保健管理の実践と課題の探求 教育生理の臨床と子供の成長課題 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	松壽 昭雄 <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	准教授	松壽 昭雄 <令和3年4月> 修士(教育学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の理論と実践A (算数・数学) 自然科学系教育の授業内容探求B (算数・数学) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の理論と実践A (算数・数学) 自然科学系教育の授業内容探求B (算数・数学) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の課題探求</b>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	小田倉 泉 <令和3年4月> 博士(教育学)	兼任	准教授	小田倉 泉 <令和3年4月> 博士(教育学)
		子ども共育の理論と実践 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 保育内容と指導の課題探求 子育て支援開発探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			子ども共育の理論と実践 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 保育内容と指導の課題探求 子育て支援開発探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	上野 茂昭 <令和3年4月> 博士(農学)	兼任	准教授	上野 茂昭 <令和3年4月> 博士(農学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 家庭科教育の授業内容探求B 家庭科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 家庭科教育の授業内容探求B 家庭科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の課題探求</b>
兼任	准教授	山中 冴子 <令和3年4月> 博士(社会学)	兼任	准教授	山中 冴子 <令和3年4月> 博士(社会学)
		特別支援教育の課題探求 実地研究Ⅰ(特別支援教育) 実地研究Ⅱ(特別支援教育) 課題研究Ⅰ(特別支援教育) 課題研究Ⅱ(特別支援教育) 特別支援教育実践研究 障害児教育実践の課題探求法 インクルーシブ教育演習 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			特別支援教育の課題探求 実地研究Ⅰ(特別支援教育) 実地研究Ⅱ(特別支援教育) 課題研究Ⅰ(特別支援教育) 課題研究Ⅱ(特別支援教育) 特別支援教育実践研究 障害児教育実践の課題探求法 インクルーシブ教育演習 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	高橋 雅也 <令和3年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	高橋 雅也 <令和3年4月> 博士(文学)
		教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	荒木 祐二 <令和3年4月> 博士(環境学)	兼任	准教授	荒木 祐二 <令和3年4月> 博士(環境学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求A 技術科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 技術科教育の理論と実践 技術科教育の授業内容探求A 技術科教育の教材研究と実践A 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	福島 賢二 <令和3年4月> 修士(教育学)	兼任	准教授	福島 賢二 <令和3年4月> 修士(教育学)
		子ども共育の理論と実践 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ <教育-社会-環境>基礎論 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			子ども共育の理論と実践 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ <教育-社会-環境>基礎論 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	高橋 哲 <令和3年4月> 博士(教育学)	兼任	准教授	高橋 哲 <令和3年4月> 博士(教育学)
		教育経営の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 子ども支援の実践と制度 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教育経営の課題探求 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 子ども支援の実践と制度 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	吉田 久 <令和3年4月> 博士(教育学)	兼任	准教授	吉田 久 <令和3年4月> 博士(教育学)
		教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求 体育・保健体育科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 体育・保健体育科教育の授業内容・指導法探求 体育・保健体育科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	中川 律 <令和3年4月> 修士(法学)	兼任	准教授	中川 律 <令和3年4月> 修士(法学)
		教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	宮崎 文典 <令和3年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	宮崎 文典 <令和3年4月> 博士(文学)
		教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 社会科教育の授業内容探求 社会科教育の教材研究と実践B 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	西澤 由輔 <令和3年4月> 博士(理学)	兼任	准教授	西澤 由輔 <令和3年4月> 博士(理学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の教材研究と実践A(算数・数学) 自然科学系教育の教材研究と実践B(算数・数学) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 自然科学系教育の教材研究と実践A(算数・数学) 自然科学系教育の教材研究と実践B(算数・数学) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の課題探求</b>
兼任	准教授	三橋 さゆり <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	三橋 さゆり <令和3年4月> 博士(学術)
		子ども共育の理論と実践 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 幼児の音楽表現の開発探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			子ども共育の理論と実践 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 幼児の音楽表現の開発探求 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
兼任	准教授	森 薫 <令和3年4月> 博士(教育学)	兼任	准教授	森 薫 <令和3年4月> 博士(教育学)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求B(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践A(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践B(音楽) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 芸術系教育の理論と実践A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求A(音楽) 芸術系教育の授業内容探求B(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践A(音楽) 芸術系教育の教材研究と実践B(音楽) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ <b>教科指導の課題探求</b>
兼任	准教授	池上 尚 <令和3年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	池上 尚 <令和3年4月> 博士(学術)
		教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A(国語) 言語文化系教育の授業内容探求B(国語) 言語文化系教育の教材研究と実践B(国語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ			教科の教育課程構成論 教科指導の発展・応用 実地研究Ⅰ 実地研究Ⅱ 課題研究Ⅰ 課題研究Ⅱ 言語文化系教育の理論と実践A(国語) 言語文化系教育の授業内容探求B(国語) 言語文化系教育の教材研究と実践B(国語) 探求活動演習Ⅰ 探求活動演習Ⅱ
			兼任	教授	薄崎 俊之 <令和3年4月> 教育学修士
					学校臨床心理学実践演習 カウンセリング実践演習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名
			兼任	教授	田村 均 <令和3年4月> 博士(経済学) 社会科学教育の授業内容探求
			兼任	教授	関口 聡 <令和3年4月> 英米文学士 教育課程の課題探求 教科指導の課題探求 教科指導の発展・応用 実地研究 I 実地研究 II
			兼任	教授	松原 和樹 <令和3年4月> 博士(理学) 教科の教育課程編成論 自然科学系教育の教材研究と実践A(算数・数学) 自然科学系教育の教材研究と実践B(算数・数学)
			兼任	准教授	松下 元彦 <令和3年4月> 学士(教育学) 教科指導の発展・応用
			兼任	講師	後藤 順一 <令和3年4月> 博士(学校教育学) 自然科学系教育の理論と実践B(理科)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

**【令和3年度】**

- ・ 池内慈朗教授就任を令和3年4月から令和4年4月（予定）に変更。
- ・ 堀田香織教授就任を令和3年4月から令和4年4月（予定）に変更。
- ・ 菊原伸郎准教授就任を令和3年4月から令和4年4月（予定）に変更。
- ・ 令和3年4月 澤崎俊之教授就任。
- ・ 令和3年4月 田村均教授就任。
- ・ 令和3年4月 関口睦教授就任。
- ・ 令和3年4月 松原和樹教授就任。
- ・ 令和3年4月 松下元彦准教授就任。
- ・ 令和3年4月 後藤頭一講師就任。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	専任教員数のうち、完成年度時における設置基準上の必要実務家教員数
18	12	8
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【教職大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
12	6	0	0	18	0	12	6	0	0	18	0
(12)	(6)	(0)	(0)	(18)	(0)						
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/		
10	8	1				10	8	1			
(10)	(8)	(1)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
12	6	0	0	18	0	12	6	0	0	18	0
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究者教員数	実務家教員数	講義のみ担当の教員数	/		
10	8	1				10	8	1			
[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(C)）の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{18}{18} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{18} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由 **該当なし**

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計 (D)						後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計 (F)						後任補充状況の集計 (G)				
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( ) 書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)						後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目	
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目	
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目	
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計 (D) + (F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画 (A)}} = \frac{0}{18} = 0 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第 3 位を切り捨て、小数点以下第 2 位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和 2 年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

□ 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
		選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
		自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」  
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」  
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」 **該当なし**

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

該当なし

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成〇〇年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成〇〇年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成△△年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (平成□□年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (令和□□年)			
設置計画履行状況 調 査 時 (令和□□年)			

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。



## 7 その他全般的事項

<教育学研究科 教職実践専攻>

(1) 設置計画変更事項等 該当なし

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>研究科カリキュラム委員会，研究科実地研究委員会を設置し，検討を進めている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>研究科カリキュラム委員会（5名専任+3名兼任+2名事務），研究科実地研究委員会（3名専任+6名兼任+2名事務）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>教職実践専攻の教育研究戦略・方法等</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業方法について授業担当会議を2回実施した（新任教員を含む）</li> <li>・ 教員相互の授業参観などを計画している</li> <li>・ 新任教員のための研修会を4月6日に実施した</li> </ul> <p>b 実施方法</p> <p>z o o mを利用</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>月に1回の研究科委員会</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>会議内容をフィードバックして実施している</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期</p> <p>実地研究に関して，研究との関連などで4月当初に1回実施をした。その他については，年度末を予定している</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等</p> <p>ホームページ等に公開した上で、学生に改善点をフィードバックする</p>
--

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

教育課程連携協議会名簿(添付資料1)

埼玉県総合教育センター長等埼玉県さいたま市の教育関係機関・団体の長の職に就いている者に役職指定で委員を委嘱している場合は、委員の任期前でも役職の任期が終了すれば後任に委員を変更している。

委員会委員の任期は令和4年度末であるが、上述の理由により8名が変更となっている。

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

年1回(1月頃) 昨年度はコロナの感染防止のため3月に書面会議を行った。

c 委員会の審議事項等

教員養成をめぐる最近の動向について、教育実習指導について、教職支援体制について 他

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

- ・ 附属学校の役割、今後の教育実習の在り方について
- ・ G I G Aスクール構想における I T C活用指導力の向上について

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

I T C教育の拡充等を検討している。

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

審議した内容をカリキュラムにいかに関反映するかを執行部で協議中。

#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

オムニバス、チーム・ティーチングによる教員協働の授業が開始され、実地研究も開始された。概ね当初の計画どおりの教育が行えていると思われる。

##### ② 自己点検・評価報告書

###### a 公表（予定）時期

・令和3年10月1日 公表（予定）

###### b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和3年10月頃を予定）

##### ③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和5年に評価機関（独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### (5) 情報公表に関する事項

##### ○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ・  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

設置計画履行状況報告書・補足説明資料（教職大学院）

埼玉大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻

【教職大学院】

国立大学法人 埼玉大学  
令和3年5月1日現在

# 目次

## 教育学研究科

＜教職実践専攻＞	ページ
1. 調査対象研究科等の令和3年度入学者・在学者の状況 . . . . .	1
2. 既存の教員養成系修士課程の状況 . . . . .	11
3. 設置の趣旨等を記載した書類の履行状況 . . . . .	13
4. 教育委員会等との調整内容の履行状況 . . . . .	27

1 調査対象研究科等の令和3年度入学者・在学者の状況

① 調査対象研究科等の令和3年度入学者の状況

(総合教育高度化プログラム学校構想サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会	2							2	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	2	0	0	0	0	0	0	2
学部新卒学生			3		3		2	1		4	
その他(社会人等)											
合 計										6	

(総合教育高度化プログラム特別支援教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会						2		2	
		さいたま市 教育委員会	1							1	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校						1		1	
	小 計		0	1	0	0	0	0	3	0	4
学部新卒学生			4		1			4		4	
その他(社会人等)											
合 計										8	

(総合教育高度化プログラム学校保健サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	埼玉県 教育委員会								0	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
学部新卒学生					1			1	2	2	その他2名の内訳 ・養護教諭免許取得者 2名
その他(社会人等)											
合 計										2	

(総合教育高度化プログラム子ども共育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	埼玉県 教育委員会								0	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
学部新卒学生											
その他(社会人等)											
合 計										0	

(教科教育高度化プログラム言語文化系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	埼玉県 教育委員会	1							1	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会						1		1	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	1	0	0	0	1	0	0	2
学部新卒学生					1		1			1	
その他(社会人等)											
合 計										3	

(教科教育高度化プログラム社会系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	埼玉県 教育委員会	1				1			2	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	1	0	0	0	1	0	0	2
学部新卒学生			3		4		4			4	
その他(社会人等)											
合 計										6	

(教科教育高度化プログラム自然科学系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会			1					1	
		さいたま市 教育委員会		1						1	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	1	0	1	0	0	0	0	2
学部新卒学生			4		7		8			9	
その他(社会人等)											
合 計										11	

(教科教育高度化プログラム芸術系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会	2							2	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	2	0	0	0	0	0	0	2
学部新卒学生			2		2		1			2	
その他(社会人等)											
合 計										4	

(教科教育高度化プログラム身体文化系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	埼玉県 教育委員会								0	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
学部新卒学生			1		2		2			2	
その他(社会人等)											
合 計										2	

(教科教育高度化プログラム生活創造系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会から の派遣制度	埼玉県 教育委員会								0	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校			1					1	
	小 計		0	0	0	1	0	0	0	0	1
学部新卒学生			2		4		2			4	
その他(社会人等)											
合 計										5	

(注)・ コースや領域・プログラム等、最小単位の区分ごとに表を作成してください。

- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。
- ・ 現職教員については、現在所属する、休業・退職している場合は入学直前に所属していた学校種に基づいて計上してください。
- ・ 現職教員の区分は、各大学の実態に合わせて、適宜追加・削除してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を複数所持している場合は、該当する校種(幼稚園～特別支援学校)の区分全てに記入し、「計」欄には実数を記入してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を所持していない場合は、「その他」に計上し、備考欄にその旨が分かるように記載してください。
- ・ 現職教員・学部新卒学生・その他(社会人等)のいずれについても、「その他」に分類される院生がいる場合は、具体的な内訳を備考欄に記載してください。

② 調査対象研究科等の令和3年度在学者の状況

(総合教育高度化プログラム学校構想サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会		2						2	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	2	0	0	0	0	0	0	2
学部新卒学生			3		3		2	1		4	
その他(社会人等)											
合 計										6	

(総合教育高度化プログラム特別支援教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会						2		2	
		さいたま市 教育委員会		1						1	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校						1		1	
	小 計		0	1	0	0	0	0	3	0	4
学部新卒学生			4		1			4		4	
その他(社会人等)											
合 計										8	

(総合教育高度化プログラム学校保健サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会								0	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
学部新卒学生					1			1	2	2	その他2名の内訳 ・養護教諭免許取得者 2名
その他(社会人等)											
合 計										2	

(総合教育高度化プログラム子ども共育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会								0	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
	小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0
学部新卒学生											
その他(社会人等)											
合 計										0	

(教科教育高度化プログラム言語文化系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会	1							1	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会						1		1	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
小 計		0	1	0	0	0	1	0	0	2	
学部新卒学生					1		1			1	
その他(社会人等)											
合 計										3	

(教科教育高度化プログラム社会系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会	1				1			2	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
小 計		0	1	0	0	0	1	0	0	2	
学部新卒学生			3		4		4			4	
その他(社会人等)											
合 計										6	

(教科教育高度化プログラム自然科学系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会			1					1	
		さいたま市 教育委員会		1						1	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
小 計		0	1	0	1	0	0	0	0	2	
学部新卒学生			4		7		8			9	
その他(社会人等)											
合 計										11	

(教科教育高度化プログラム芸術系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会	2							2	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会								0	
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
小 計		0	2	0	0	0	0	0	0	2	
学部新卒学生			2		2		1			2	
その他(社会人等)											
合 計										4	

(教科教育高度化プログラム身体文化系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会								0	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校								0	
小 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
学部新卒学生			1		2		2			2	
その他(社会人等)											
合 計										2	

(教科教育高度化プログラム生活創造系教育サブプログラム)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考
現 職 教 員	教育委員会からの 派遣制度	埼玉県 教育委員会								0	
		さいたま市 教育委員会								0	
		川口市 教育委員会									0
	派遣制度以外	埼玉大学 附属学校			1					1	
小 計		0	0	0	1	0	0	0	0	1	
学部新卒学生			2		4		2			4	
その他(社会人等)											
合 計										5	

(注)・ コースや領域・プログラム等, 最小単位の区分ごとに表を作成してください。

- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので, 手入力しないでください。
- ・ 現職教員については, 現在所属する, 休業・退職している場合は入学直前に所属していた学校種に基づいて計上してください。
- ・ 現職教員の区分は, 各大学の実態に合わせて, 適宜追加・削除してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を複数所持している場合は, 該当する校種(幼稚園~特別支援学校)の区分全てに記入し, 「計」欄には実数を記入してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を所持していない場合は, 「その他」に計上し, 備考欄にその旨が分かるように記載してください。
- ・ 現職教員・学部新卒学生・その他(社会人等)のいずれについても, 「その他」に分類される院生がいる場合は, 具体的な内訳を備考欄に記載してください。

## 2 既存の教員養成系修士課程の状況

【教育学研究科学校教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	1	0	0	令和3年度から学生募集停止
		派遣制度以外	0	2	2	
		小計(a)	1	2	2	
	学部新卒学生(b)		10	10	5	—
	その他(社会人等)(c)		5	9	9	—
	計(d=a+b+c)		16	21	16	—
入学定員(e)		15	15	15	—	
定員超過率(d/e)		107%	140%	107%	—	

【教育学研究科教科教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	備 考
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	0	1	0	令和3年度から学生募集停止
		派遣制度以外	0	3	1	
		小計(a)	0	4	1	
	学部新卒学生(b)		39	24	15	—
	その他(社会人等)(c)		6	5	4	—
	計(d=a+b+c)		45	33	20	—
入学定員(e)		27	27	27	—	
定員超過率(d/e)		167%	122%	74%	—	

(注)・本表は既存の教員養成系修士課程における全ての専攻について作成してください。

必要に応じて表を追加してください。

- ・黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。
- ・学生募集停止中の研究科・専攻等については、「—」を記入するとともに、「備考」に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。



### 3 設置の趣旨等を記載した書類の履行状況

① 設置の趣旨及び必要性

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 教育上の理念、目的</p> <p>社会の変化とともに学び続け、教員集団の中核として活躍する実践的探求力と課題解決力をもった教員を育成することを教育上の目的とする。</p> <p>イ どのような教員を養成するのか。</p> <p>具体的には次のような教師を目指す</p> <p>具体的な状況のなかでの子どもの学びと育ちを支えるために、自分たちの教育実践を熟考、創造、省察してゆく課程で、多様な人や場や知とのつながりをうみだしながら、たえず教育の問題や意味を問い直しつづける教師</p>	<p>設置（認可）時の計画どおりに履行予定</p> <p>「国立大学法人埼玉大学大学院教育学研究科規程」第3条に規定されており、「教職大学院履修の手引き」(添付資料1)P19で院生への周知を計っている。</p> <p>設置（認可）時の計画どおりに履行予定</p> <p>「2021教職大学院案内」(添付資料2)P4で周知している。</p>

② 教育課程の編成の考え方及び特色

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 教育課程の編成の考え方</p> <p>「教職実践専攻」1専攻とし、従来のような入学者が「コース制」、つまり所属するコースが指定する科目を履修する形を取らず、入学者が所属するサブプログラムの科目中心に自分でカリキュラムを構成する「プログラム制」とした。</p> <p>① 共通科目について</p> <p>「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」の共通科目5領域を開設。</p> <p>これらは、「地域のニーズ」とりわけ埼玉県、さいたま市からの要望に応えるものとなっている。</p> <p>② 分野別科目について</p> <p>サブプログラム科目は、共通科目を通して身につけた幅広い知識の一層の深化を図るとともに、実地研究での教育実践に係わる理論とその具体的・実践的意義の理解を深め、教育実践の基盤をより確かなものとするを目的としている。</p> <p>サブプログラムでは、共通科目を土台にして、希望する領域や研究テーマに即して選択できる科目を設定する。</p> <p>【総合教育高度化プログラム】</p> <p>学校構想サブプログラム、特別支援教育サブプログラム、 学校保健サブプログラム、子ども共育サブプログラム</p> <p>【教科教育高度化プログラム】</p> <p>言語文化系教育サブプログラム、自然科学系教育サブプログラム、 身体文化系教育サブプログラム、社会系教育サブプログラム、 芸術系教育サブプログラム、生活創造系教育サブプログラム</p> <p>③ 実習科目について</p> <p>学校の教育活動全体について総合的に体験し、教育実践上の課題に対するより効果的な思考法と対応力を身につけることを目的とする。</p> <p>更に、学卒院生にとっては、学校の組織体制やその運営にも広く目を向け、教育現場をより深く理解する機会となることを期待している。</p> <p>また、特別支援教育における実践力の高度化と学校保健に関わる実践力の高度化に資するものとして、それぞれ「実地研究(特別支援教育)」「実地研究(学校保健)」も開設する。</p> <p>④ 課題研究</p> <p>学校現場での教育実践に携わることを通して、教育実践に係わる基礎的事項の学修を進めるとともに、教育実践に関する課題意識を明確にする課題研究Ⅰと、実地研究との往還により授業を進め、指導教員との協議のもと、定期的に教育実践のリフレクションを行いながら、研究実践報告書などをまとめることを目的とする課題研究Ⅱを学修する。</p> <p>特別な教育的支援をもつ児童生徒の教育に関わる諸事項を理解し、学校での支援実践の基礎力を育成するものとして、「課題研究(特別支援教育)」を開設</p> <p>学校保健に関わる諸事項を理解し、学校での養護に関する基礎力を育成するものとして「課題研究(学校保健)」を新たに開設</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>「教職大学院履修の手引き」(添付資料1)P25～を参照</p> <p>障害児心理学の実践と課題Aと障害児心理学の実践と課題Bは各年で開講するため、令和3年度は障害児心理学の実践と課題Bは開講しない。</p> <p>コロナウィルスの影響により、指導教員の実地研究先における指導は、実地研究先とも相談しながらzoomを利用した遠隔指導を併用する。</p>

<p>イ 教育課程の編成の特色</p> <p>以下の科目を全体にかかる科目として開設</p> <p><b>【現代的・地域的教育課題の共同探求】</b></p> <p>教育に関わる問題の改善のためには、学校の教師、学校の教師以外の他職種、学校外の行政や地域の多様なエイジェンシー（主体、機関）がつながってゆかなければならない。にもかかわらず、多くの場合、それらの間に壁がある。その壁を越えたアソシエーション（関係や場）の編み直しをしてゆくことを探求する。</p> <p><b>【探求活動演習Ⅰ・Ⅱ】</b></p> <p>教育に関わる問題の改善のためには、学校の教師、学校の教師以外の他職種、学校外の行政や地域の多様なエイジェンシー（主体、機関）がつながってゆかなければならない。にもかかわらず、多くの場合、それらのあいだに壁がある。その壁を越えたアソシエーション（関係や場）の編み直しをしてゆくことを探求する。</p>	<p>設置（認可）時の計画どおりに履行予定</p>
---	---------------------------

③ 教員組織の編成の考え方及び特色

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 教員組織の編成の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実務家教員の配置の考え方 18名の専任教員のうち8名を実務家教員とする。</li> <li>・教員の年齢構成と定年規定 教員組織は、開設後において、40歳代2名、50歳代9名、60歳代7名の専任教員で構成し、完成年度においては、40歳代2名、50歳代7名、60歳代9名の専任教員で構成する。 教員の定年は65歳。本学教職大学院の完成年度までに定年を迎える教員は2名いるが、教育研究の継続性を担保するため、非常勤講師(みなし専任)として任用する。</li> </ul> <p>イ 教員組織の編成の特色</p> <p>教科教育高度化プログラムを設置し、教科教育を導入することから多くの兼任教員を置く。兼任教員は、本専攻の開設科目を担当する他、実地研究や課題研究も担当する。このことで、専任教員を中心としつつも、ほとんどの教育学部所属教員が、各自の専門性を生かしながら、教職大学院に深く関わり、そこでの教育研究の発展と深化に寄与する体制を構築することを目指す。</p> <p>ウ 実務家教員と研究者教員の配置の比率の考え方</p> <p>「大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件の一部を改正する告示(平成26年11月7日公布)」に基づき算出した人数を確保する。</p> <p>エ 専任教員が担当する学部・大学院の科目一覧</p> <p>設置計画履行状況報告書「教員組織の状況」とおり。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>兼任教員については、担当教員の変更により3名が担当を外れ、新任教員3名と当初教職大学院の担当を予定していなかった2名計5名を追加した。</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>

④ 教育方法、履修指導の方法及び修了要件

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>ア 標準修了年限、履修科目の年間登録上限、修了要件、既修得単位の認定方法、成績評価の方法等</p> <p>標準修了年限は2年 履修科目の年間登録上限は42単位 修了要件は共通科目16単位、サブプログラム科目10単位、実地研究Ⅰ・Ⅱ10単位、課題研究Ⅰ・Ⅱ4単位、選択科目6単位合計46単位以上を修得した者。 既修得単位の認定方法は、研究科カリキュラム委員会の審査を経て研究科長が認定する。 成績評価の方法は、埼玉大学単位修得の認定に関する規則に基づき、履修者が授業の到達目標をどれだけ達成したかに応じて評価する。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>「国立大学法人埼玉大学大学院学則」(添付資料3)第10条の2第1項参照 「教職大学院履修の手引き」(添付資料1)P25～(国立大学法人埼玉大学大学院教育学研究科規程)を参照 「埼玉大学単位修得の認定に関する規則」(添付資料4)第3条</p>
<p>イ 学修の修了を総合的・最終的に確認するための方策等</p> <p>2年(短期履修制度利用者は1年)以上在籍し、上述の単位を修得し、実地研究報告書を作成して研究成果を発表し、指導教員を含む複数の教員による審査に合格することを修了の条件とする。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>
<p>ウ 実践的な教育を行うための授業の工夫</p> <p>学校教育に関する基礎的事項や教育の理論を「講義」で学ぶだけでなく、様々な観点から「演習」で吟味・ディスカッションしながら、その成果を発表して学び合うことを組み合わせて展開する。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>
<p>エ 現職教員学生と学部新卒学生の合同教育を行う場合の工夫</p> <p>どの授業も制限を設けず現職院生と学卒院生の両方が受講する形をとり、それぞれの専門性や経験を生かした学び合いを成立させることを企図する。交流の仕方については、グループワークや発表、模擬授業などの際に、ねらいや教育内容に対応するようグループの構成や規模を変えて実施する。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>
<p>オ 1年コースや長期コースを設定する場合の理念、方策</p> <p>・短期履修制度 正規職員としての教職経験5年以上あるものを対象に、1年間で修了できるカリキュラム。1年次は2年間で修了する院生と同じプログラムに所属し、学卒院生と授業等を通じて互いに高め合う相乗効果をねらう。</p> <p>・長期履修制度 職業を有しているなどの理由により、標準の年限(2年)で修了が難しい場合でも、一定の期間(最長4年)内で修了ができるようにするものである。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>
<p>カ 現職教員に対する実習免除の基準等</p> <p>・実施の有無 実施する。</p> <p>・実習を免除する現職教員学生の教職経験を設定した考え方 正規職員として5年以上の教職経験を有することが条件となっているため、実地研究Ⅱを修得したと見なす実力があると想定される。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>

- ・教職経験と実習により修得させようとする内容との相関性  
正規職員としての教職経験5年以上あるものは、審査を受け承認されれば、「実地研究Ⅱ」の履修免除に相当する経験・業績を有するものとして履修を免除される。
- ・免除のプロセス  
出願時に申請書を提出。入学者選抜試験の口述試験終了後に面接を実施。審査委員会が審査を行い、研究科の審議を経て学長が承認。
- ・教職経験の評価方法、評価体制  
所属を希望するサブプログラム単位で設置する審査委員会で、各申請書類と面接によって審査する。
- ・実習免除の基準  
面接と提出書類を審査し、実地研究Ⅱの実習を行ったと見なせる実力があ  
るかを総合的に判断する。
- ・免除のために提出させる書類  
別添のとおり(添付資料5)
- ・免除の判定方法及び判定する組織・体制  
所属を希望するサブプログラム単位で設置する審査委員会で行う。
- ・入学希望者や学生に対する周知内容、周知方法  
教育学部教育学研究科ホームページ、教職大学院案内、募集要項にて周知。また、埼玉県、さいたま市各教育委員会に周知を依頼。
- ・免除の実績
- ・実習の免除基準に達している学生が、実習の履修を希望した場合の取扱い  
本人からの短期履修制度での履修の申請がなければ、通常どおり実習を履修させる。

令和3年度入学者は15名の短期履修学生がおり全員6単位を免除した。

⑤ 既存の学部（修士課程）との関係

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
既存の教育学研究科修士課程は令和4年度を目途に教職大学院に全面移行する。	設置(認可)時の計画どおりに履行予定 令和3年度の学生募集は停止。

⑥ 入学者選抜の概要

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 入学者選抜の概要(選抜方法、選抜体制等)</p> <p>一般選抜、現職教員等特別選抜、指定校推薦特別選抜の各選抜による。</p> <p>一般選抜、指定校推薦特別選抜は筆記試験と口述試験により選抜 現職教員等特別選抜は口述試験により選抜 入学定員は1学年52名とし、選抜ごとの定員は設定しない。</p> <p>イ アドミッション・ポリシー</p> <p>[1]求める教員像 教員集団の中核として活躍する実践的探求力と課題解決力や、豊かな人間性・社会性を持つとともに、社会の変化とともに幅広く学び続ける教員。</p> <p>[2]育成する能力 高度な知識・技能に基づいて子どもたちが主体的・協働的に学ぶ授業をデザインし、実践できる力、子どもと彼らを取り巻く状況を深く理解した上で適切な学級経営を行える力、的確な課題把握に基づいて問題解決を図り、学校運営の中核的スクールリーダーとなりうるマネジメント力、実践と理論の往還に基づく深い省察を行い、実践研究につなげていく力。</p> <p>[3]求める入学者の姿 現代の教育課題を解決しようとする熱意を持ち、理論と実践を融合したカリキュラムによる学びによって研究力と実践力を培い、将来、教員集団の中核として活躍したいと考えている人。</p> <p>ウ 現職教員受入れのための具体的方策 埼玉県、さいたま市からこれまでの実績人数のとおり約10名の現職教員を派遣するという内諾を得ている。これに加え、附属学校からも長期研修として教職大学院に派遣することとしている。</p> <p>エ 学部新卒者受入れのための具体的方策 学部新卒者受入のために学部内特別選抜を設けた。</p>	<p>学生募集要項(添付資料6)参照</p> <p>当初予定の各選抜に加え、学卒院生確保のため学部内推薦特別選抜を行った。なお、学部内特別選抜は口述試験により選抜した。</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>埼玉県、さいたま市に加え川口市からも現職教員が派遣されることになった。附属学校においてもこれまで4校園がそれぞれ数年おきに派遣していたが、4校園で話し合いにより毎年1人を派遣することになった。</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>

⑦ 取得できる免許状

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 取得できる免許状</p> <p>以下の教員免許状(専修免許状)を取得できる。</p> <p>ただし、専修免許状の種類(中学校教諭及び高等学校教諭の専修免許状についてはその免許教科)に対応する一種免許状を有していることが必要であり出願資格としている。</p> <p>幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語)</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>出願資格に「教育職員免許法による幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭若しくは養護教諭の免許状を有する者」であることが要件となっているため免許状未取得者が入学することは想定していない。</p> <p>学生募集要項(添付資料6)P9参照</p>

埼玉大学教職大学院

<p>高等学校教諭専修免許状(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、 美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、 家庭、情報、農業、工業、商業、福祉、英語) 特別支援学校教諭専修免許状(知的障害、肢体不自由者、病弱者) 養護学校専修教諭</p>	
--	--

⑧ 「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の特例を実施する場合

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 修業年限 2年</p> <p>イ 履修指導の方法 標準カリキュラムにおいて、実地研究・課題研究以外の修了要件単位数を、1年次に修得できるように履修指導を行う。 2年次は、本務校等での勤務の傍ら、「課題研究Ⅱ」での学びを通して「研究実践報告書」の作成を中心とする学修を行う。</p> <p>ウ 授業の実施方法 実地研究Ⅰは第3・4タームに実地先に赴くので、共通科目を第1・2タームに配置することで確実に共通科目の必修科目を履修できるよう配慮してる。 「課題研究Ⅱ」は、勤務時間以外の土曜日又は平日の勤務時間以外の夜間等において実施する。</p> <p>エ 教員の負担の程度 2年次の土曜日、夜間等における指導がある場合は、週休日の振替等により対応する。教員の負担の程度については、授業担当については、担当教員の通常授業での負担軽減を図るなどして平準化を図る。</p> <p>オ 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な教員の配置 図書館は土曜日及び夜間(21時30分まで)開館している。学内LANを使用して、学内外からも大学院での学修に必要な情報にアクセスすることができる。生協の食堂並びに購買部が、平日は20時まで(土曜日は時間短縮)。またキャンパス内に、土日も含め22時まで営業しているコンビニエンスストアがある。夜間開講は、19時半までである。</p> <p>カ 入学者選抜の概要 現職教員等特別選抜として実施する。所属学校長の派遣現職教員に対する期待及び要望を含めた推薦書(書式任意)を提出するものとする。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>ただし、本年度はコロナウィルス感染防止のため、食堂等は営業時間を短縮してる。また、状況によっては図書館も業務内容を縮減する場合もある。</p>

⑨ 2以上の校地において教育研究を行う場合

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 専任教員の配置, 教員の移動への配慮</p> <p>イ 学生への配慮</p> <p>ウ 施設設備, 図書</p> <p>エ 開設科目名及び開設科目ごとにおける対象の学生数</p>	<p>該当なし</p>

⑩ 現職教員を対象とした教育の一部を本校以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
ア 開講科目 イ 教育研究環境、施設設備、図書 ウ 教員の移動 エ 受入れ学生数	該当なし

⑪ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>ア 実施場所, 実施方法, 学則における規定等</p> <p>イ 開設科目名</p> <p>ウ 開設科目ごとにおける対象の学生数</p>	<p>該当なし</p>

⑫ 管理運営の考え方

認可(設置)時の計画	履行状況
<p>ア 研究科委員会(研究科教授会に相当するもの) 研究科の教育研究に関する重要事項を審議する。</p> <p>① 構成員</p> <p>1. 研究科長(教育学部長が兼任する)</p> <p>2. 研究科担当の専任及び兼任の教授、准教授及び講師(みなし専任教員を含む)</p> <p>② 開催状況</p> <p>③ 審議事項等</p> <p>1. 大学院学生の入学及び課程の修了に関する事項</p> <p>2. 学位の授与に関する事項</p> <p>3. 前2号に掲げるものの他、学長が定める教育研究に関する重要な事項</p> <p>イ その他の組織体制 教職実践専攻委員会 本専攻の教育研究戦略・教育研究方法等について検討し、案を作るなどして、その内容を研究科委員会に提案する。</p> <p>① 構成員</p> <p>1. 専攻長(研究科長が指名する)</p> <p>2. 研究科担当の専任である教授、准教授及び講師(みなし専任教員を含む)</p> <p>② 開催状況</p> <p>③ 審議事項等</p> <p>1. 本専攻の教育研究戦略</p> <p>2. 本専攻の教育研究方法</p> <p>3. その他本専攻の教育研究の改善に資する事項</p> <p>教育学研究科諸委員会(分科会) 教育学研究科教職実践専攻の教育研究や運営を担うものとして、教育学研究科の下に下記の4委員会を置く。</p> <p>① 研究科カリキュラム委員会: 教職実践専攻の時間割作成や、全体のカリキュラムの改善を行う。共通科目及び選択科目の内容の検討、実地研究や課題研究などの取り組みを検討する。</p> <p>② 研究科実地研究委員会: 実地研究の企画・運営・評価など担当する。実地研究を行う学校の調整や学校訪問の期日など、実地研究に関する活動を支援する。</p> <p>③ 研究科アドミッション委員会: 教職大学院の入試全般を担当する。</p>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>月1~2回開催</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>令和3年度は初年度であるため、改組を主導し、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、連携協力校との渉外を行い諸事情に精通して運営企画室が教職実践専攻委員会及び研究科広報委員会の任にあたることとした。これにより、兼任教員が新たに担当する実地研究、課題研究等の指導に注力できることも見込んでいる。概ね週1回開催しているが、教職大学院についての協議は9月以降の予定。</p> <p>各委員会は学部長推薦の委員とそれ以外の委員から成り、必要に応じて随時開催する。研究科カリキュラム委員会と研究科実地研究委員会が実地研究の報告会を開催し、実習生の発表や実習先教員の発表に対するコメント等から学校教育の実体や社会の変化を知ることができ、今後のカリキュラムや実地研究に活かしていく。</p> <p>なお、みなし専任教員は、連携協定を締結している埼玉県教育委員会やさいたま市教育委員会との協議に同行したり、研究科カリキュラム委員会とともに実地研究先と院生の調整を行う。</p>

④研究科広報委員会: 教職大学院の広報関係を担当する。	
--------------------------------	--

⑬ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 大学全体のFDの取組</p> <p>研究倫理教育:研究活動上の不正行為を事前に防止                      ハラスメント防止研修:基礎的知識等の理解                      新任教員研修会:大学における業務や職務、倫理などを身につける研修</p> <p>イ 教職大学院独自のFDの取組</p> <p>教育学部主催ファカルティ・ディベロップメント(FD):教員の教育研究の質の向上に資するための各種研修を行う。</p> <p>ウ 教職大学院専任教員の研究の質の向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の教職大学院において、チームティーチング、あるいはオムニバス形式で授業を担当することを通して、教育能力向上を図る。</li> <li>・研究科全体で、附属学校での研究授業・授業研究会・校内研修へ参加し、指導助言や共同研究を行うことを通して、実践的な知見の充実を図る。</li> <li>・大学院生がまとめる課題研究報告書の指導や、研究者教員とともに「現代的・地域的教育課題の共同探求」の担当を通して、実践研究の能力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員研修:令和3年4月1日</li> <li>・新任教員に対するeラーニングによる研究倫理教育                      令和3年4月18日(日)~5月10日(月)</li> </ul> <p>令和3年度授業に向けた準備としての令和2年度中の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会における教職大学院に関する説明:令和2年11月27日(金)                      「実地研究実地校園選定・依頼に係る協力体制構築に向けて」</li> <li>・教職大学員カリキュラム説明会:令和3年3月11日(木)                      共通科目における実務家教員との協働の方法について 他</li> <li>・長期研修報告会:令和3年3月26日(金)                      「アメリカにおける教職専門性保障システムと授業研究の役割                      -日米比較を念頭に-」</li> </ul>

⑭ 連携協力校等との連携

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 連携協力する学校名と具体的な連携内容</p> <p>添付資料「連携協力校一覧」のとおり</p> <p>イ 連携協力校以外の関係機関（民間企業、関係行政機関、教育センター等）の名称と具体的な連携内容</p> <p>該当なし</p> <p>ウ 大学・学部が附属学校を設置している場合の活用方法</p> <p>実地研究受入先として活用する。</p>	<p>設置（認可）時の計画どおりに履行予定</p> <p>主に特別支援教育について学習する学生のために、高等学校5校を加えた。連携協力校一覧(添付資料7)参照</p> <p>設置（認可）時の計画どおりに履行予定</p>

⑮ 実習の具体的計画

認 可（設 置）時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 実習計画の概要</p> <p>・実習目標</p> <p>児童生徒の実態及び発達の理解と学校教育の全体構造とを関連づけ、学校教育における実践を深く理解することを目標とする。</p> <p>更に、学卒院生においては、研究テーマに関する課題の解決策を立案する能力及び解決のための実践力を高め、現職院生は、実際に学校内外と協働して課題解決に取り組む力量や授業改善、また、様々な教育的ニーズに応じた適切な学習支援等を組織的にリードし、学校全体の授業力向上や学習支援等の充実を図る力量を養う。</p> <p>・実習単位</p> <p>実地研究Ⅰ…4単位</p> <p>実地研究Ⅰ(特別支援教育)…4単位</p> <p>実地研究Ⅰ(学校保健)…4単位</p> <p>実地研究Ⅱ…6単位</p> <p>実地研究Ⅱ(特別支援教育)…6単位</p> <p>実地研究Ⅱ(学校保健)…6単位</p> <p>・具体的な実習内容、教育上の効果</p> <p>授業や実際の指導、教員の指導補助、教員の指導や児童生徒の活動の観察、諸行事、諸会議及びクラブ活動等学校の教育活動全体について総合的に体験する。</p> <p>実習校で体験したこと学習したことを記録文章化したり、共通科目「学校と教職の課題探求」においてグループ・カンファレンスを行う。また、課題・問題の解決に向けて、指導教員などからアドバイスを受けて協議することで、省察力と対応力を身に付ける。</p> <p>・実習施設に求める要件</p> <p>実地研究の目的及び実施方法等、学部実習との差異、教職大学院で学ぶことの意義やそこで得ようとしている知識・能力についての理解があること。また、現職院生の実地研究先は、研究指定校や先進的な実践研究に取り組んでいる学校であること。</p> <p>・実習期間・時間</p> <p>実施研究Ⅰ(学卒院生)…6月～12月、実地研究先での実習は16日間</p> <p>実地研究Ⅱ(学卒院生)…2月～7月、実地研究先での実習は24日間</p> <p>実地研究Ⅰ(現職院生)…128時間</p> <p>・学生の配置人数等</p> <p>附属学校園…4人～20人</p> <p>附属学校園以外の連携協力校…1人～4人</p>	<p>設置（認可）時の計画どおりに履行予定</p> <p>「教職大学院履修の手引き」(添付資料1)P11～参照</p> <p>「2021教職大学院案内」(添付資料2)P6参照</p> <p>令和3年度は各校3～4名</p> <p>令和3年度は各校1名</p>

<p>・問題対応、きめ細やかな指導を行うための実習委員会の設置等 研究科実地研究委員会を設置する。 専攻内には実地研究担当者(部署)を置き、実地研究事前指導や中間及び最終報告の取りまとめなどを行うとともに、指導教員・院生・実地研究校の全体が有機的に機能するよう調整する。</p> <p>・学生へのオリエンテーションの内容</p> <p>イ 実習指導体制と方法</p> <p>実地研究 I</p> <p>第1・2タームは、指導教員の事前指導等を受けながら実地研究計画書を作成する。実習開始後は日々の実習記録を作成し、2週に1度は指導教員が実地研究校に赴き、進捗状況を確認しながら必要な指導を行う。実践と理論の往還を果たすために、途中でのリフレクション(振り返り活動)を行う。また、実地研究報告会に、報告書を作成して発表する。これに伴い複数の指導教員や実習校の教員が関わることから多角的な振り返りの機会となる。</p> <p>実地研究 II</p> <p>前年度中に指導教員の事前指導を受け、実地研究計画書を作成する。また、実地研究先を指導教員と共に訪問し、事前指導を受ける。実習開始後は日々の実習記録を作成させ、実習期間中に6回程度は指導教員が実習先に赴き、進捗状況を確認しながら必要な指導を行う。週の後半を実習校で過ごし、前半は大学で授業を受講する形態を生かして、理論と実践の融合・往還を図り、また各指導教員の日常指導を実習中に受けることが可能である。</p> <p>終了時には専攻全体で実地研究報告会を設け、最終報告書の作成など実地研究 Iと同様の態勢で、集団的に学修の成果を確認する。</p> <p>実地研究 I (現職院生)</p> <p>年度当初に実地研究ガイダンスを実施して、事前指導を行う。指導教員の指導の下で自らの計画に従い、研究指定校や先進的な実践研究に取り組んでいる学校などを実地研究先と定めて、延べ128時間に相当する訪問学習を行う。実地研究開始後は、フィールドワーク記録シート、フィールドワーク報告カードを作成させ、訪問学習の都度指導教員からの指導が行われる</p> <p>実地研究 II</p> <p>短期履修制度を適用可能とする。 それ以外の院生は、所属校において、学校課題を踏まえた各人のテーマに関する実践的な研究の深化を図る。大学指導教員が実習期間中に6回程度の学校訪問を行い、進捗状況を確認して指導を行う。</p> <p>ウ 施設との連携体制と方法</p> <p>連携協力校に対しては、実地研究の目的及び実施方法等、学部実習との差異、教職大学院で学ぶことの意義やそこで得られる知識・能力について、文書及び事前訪問を通じて周知・説明する。 また、実地研究中に指導教員が実地研究先に赴いた際に、実習校指導教員と実習の進捗の確認やその後の指導について協議する。 なお、実施時には、想定されない事態や判断を急ぐ事態に対して教職大学院の窓口を設置し、日常的に連絡を取りやすい体制を整えている。</p> <p>エ 単位認定等評価方法</p> <p>・各施設での学生の評価方法</p> <p>・各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携 2週に一度は指導教員が実地研究校に赴き、進捗状況を確認しながら必要な指導を行う。また、最終報告会は、実習校の教員も同席し指導する。</p> <p>・大学における単位認定方法 埼玉大学単位修得の認定に関する規則に基づき、履修者が授業の到達目標をどれだけ達成したかに応じて評価する。</p>	<p>研究科実地委員会 構成員: 学部長推薦1名、他7名、 オブザーバーとして教育企画室員1名、事務2名 開催状況: 必要に応じて随時 審議事項: 実地研究の企画・運営・評価など担当する。実地研究を行う学校の調整や学校訪問の期日など、実地研究に関する活動を支援する。</p> <p>授業の履修方法と時間割について、実地研究について(スケジュール、教育実習との違い等)、指導教員名と連絡方法、演習室(自習室)の利用方法 設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>発表、議論への参加、報告書、各施設の指導者の感想・意見等を複数の指導教員が総合的に評価する。</p> <p>本学指導教員が実地研究校に赴くとき、また実習校の教員が最終報告会に来るときを利用し、両者が学習の進捗状況等の情報を共有しながら学生の評価も行う。</p>
--	---

## 4 教育委員会等との調整内容の履行状況

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 養成する人材像について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象とする学生層(現職教員学生と学部新卒者)と規模 入学定員は52名に設定している。現職教員学生と学部新卒者の内訳の人数は設定していない。</li> <li>・教育委員会から推薦を受ける現職教員の派遣要件 初等中等教育において累計5年以上の教職経験を有し、在職のまま入学可能であること。ただし、短期履修制度を利用して1年のみの派遣を予定する場合は、正規職員であることも要する。</li> </ul> <p>イ 教育課程・教育方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的指導力を育成する体系的で効果的なカリキュラム編成 カリキュラムの編成は共通科目、専門科目、実習科目、課題研究から成り、共通科目に「地域ニーズ」に答えるための5つの「課題探求」が設けられている。</li> <li>・実践的で新しい教育方法の開発・導入の方策 共通必修科目の中でも特徴的な科目として「学校と教職の課題探求」を位置付けている。この科目では、専門的な知識の提供や討議など講義や演習の形式で展開するところと、実地研究での学校の経験に基づいた省察と対話を含む「グループ・カンファレンス」を実施するところがつなげて展開されるつくりとなっている。</li> <li>・デマンド・サイドの意見・ニーズが反映される教育課程等の改善のシステム 大学院教育学研究科教職実践専攻(以下「教職大学院」という。)における教員養成の質の向上並びに教育委員会及び連携協力校等と連携した教育の推進を目的として、諮問会議を設置した。</li> </ul>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>学生募集要項(添付資料6)P9参照 現職教員学生15名、学部新卒者32名が入学</p> <p>学生募集要項(添付資料6)P9参照 教育委員会からの推薦で13名が入学</p> <p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p> <p>「2021教職大学院案内」(添付資料2)P6参照</p>
<p>ウ 履修形態について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現職教員学生が職務に従事しながら履修する場合における昼夜開講制等の配慮・工夫の方策 標準カリキュラムにおいて、実地研究・課題研究以外の修了要件単位数を、1年次に修得できるように履修指導を行う。2年次は、本務校等での勤務の傍ら、「課題研究Ⅱ」での学びを通して「研究実践報告書」の作成を中心とする学修を行う。「課題研究Ⅱ」は、勤務時間以外の土曜日又は平日の勤務時間以外の夜間等において実施する。「実地研究Ⅱ」は、本務校での教育を通して行い、適宜担当教員の指導を受けるものとする。</li> </ul>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>
<p>エ 教員組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理論と実践の融合が担保される教員組織の全体構成 専任教員のうち理論を担う研究者教員が10名、実務家教員が8名で構成されている。また、指導体制の厚みを持たせるために、72名の研究者教員が兼任教員として本専攻に参加する体制を構築する。</li> <li>・実務家教員に求める教職経験の内容、資質等 学校や教育行政機関等での実践、企画・運営に携わった幅広い見識・経験をもとにした教育実践指導、教育実習や課題研究の指導能力を備えていること。</li> <li>・都道府県等の教育センターの専門的職員の活用・協力 埼玉県総合教育センターからは実務家教員としての派遣はないがセンター長が諮問会議の委員として指導・助言をしている。</li> </ul>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務家教員の質確保にかかる継続的な採用の方策 埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会の協力を得て、教育委員会の要職や小中学校の校長等を歴任した優秀な人材を毎年6名雇用している。</li> </ul>	
<p>オ 連携協力校の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携協力校設定の考え方 埼玉県教育委員会及びさいたま市教育委員会との協議を経て決定</li> <li>・具体的な連携協力内容 埼玉県から20校、さいたま市から20校の連携協力校があり毎年多くの学部教育実習生を含む各種の実習生を受け入れている。</li> <li>・毎年度継続して連携協力校等を確保できる方策 実務家教員による実地研究先との渉外や研究者教員の実地研究先との共同研究等の繋がりを通して継続して協定校となっている。</li> </ul>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>
<p>カ 実習の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置の趣旨, 特色, 教育課程等を踏まえた, 実習校の学校種, 規模, 立地条件に応じた実習先の考え方 附属学校園の他埼玉県内の小学校、中学校、特別支援学校</li> <li>・学生層(現職教員・学部新卒者)に応じた実習校の学校種, 実習内容, 実施年次の考え方 学卒院生の実地研究では、附属学校園及び県内の小中学校を受け入れ先として実習を行う。指導教員の指導の下で自らの計画に従い、研究指定校や先進的な実践研究に取り組んでいる学校などを実地研究先と定めてフィールドワークを行う。</li> </ul>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>
<p>キ 教職大学院の管理運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恒常的に教育委員会等デマンド・サイドと密接に連携する方策 本学教職大学院の取り組みについては、埼玉県教育委員会とは連携協議会を、さいたま市教育委員会とはコラボレーション推進委員会を、それぞれ年一回開催し意見交換を行っている。</li> <li>・学校教育の実態や社会の変化等に柔軟に対応しうる機動的な管理運営システムの確立 教育学研究科の下に、次の4つの委員会(分科会)を置くことで機動的な管理運営を行う。 研究科カリキュラム委員会(時間割作成やカリキュラムの改善)、 研究科実地研究委員会(実地研究の企画、運営、評価)、 研究科アドミッション委員会(入試関係)、 研究科広報委員会(広報関係)</li> </ul>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>
<p>ク その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FD活動への教育委員会等の協力内容 「毎年開催する教育実践フォーラム」において、実地研究先の管理職、実習担当教員、教育委員会の担当者等からの意見を聴取し、教育実践研究全体の実施方法及び指導方法の改善を行う。</li> <li>・自己点検の評価等への取組 本学では、副学長(目標計画・評価担当)を置くとともに、自己点検・評価を全学的実施する組織として埼玉大学教育・研究等評価室を設置している。ここでは、教育・研究活動及び業務運営の状況について、適正な評価に基づく改善提言や評価結果の反映の検証を通じた教育・研究活動の質の向上と業務運営の改善を図るための業務を行っている。</li> </ul>	<p>設置(認可)時の計画どおりに履行予定</p>